

花巻関係記事一 ※ 記事は『』から収集したもので、内容を意識しています。

【寛永 21 年・1644】記載事項 -12/16 以降、正保元年-

- 3/14 殿様、花巻宿泊(江戸より、翌 15 日まで逗留)
- 3/23 花巻仕置、石井伊賀が花巻で受けた指示を、織笠庄助が筆写
- 3/28 前年に花巻御蔵入中へ伐採を命じた御鷹部屋建築用材、上る
- 3/29 黒沢尻町 10 軒焼失(織笠庄助報告) 注一織笠は、200 石で南御仮屋住まい
- 4/6 花巻より川舟、下る(石巻へ)
- 4/8 大迫の九郎右衛門家、会所となる
- 4/24 花巻蔵米、石巻へ下る
- 4/27 稗貫大光寺山野火、織笠庄助報告
- 5/8 前日安俵町で火事、20 軒焼失する
- 5/9 花巻海土渕で八幡寺、降雨祈祷
- 5/16 花巻で雨乞い(八幡寺・信楽寺・長谷堂・観音寺による)
- 5/18 海土ヶ渕で雨乞い、八幡寺・信楽寺・長谷寺・観音寺・瑞興寺・雄山寺・宗仙(青カ)寺・
広隆寺・松庵寺(打続く炎旱天のため)
- 5/23 大迫の黒沢金山で火事、小屋 10 軒余焼失
- 5/27 豊沢川上流の出羽沢の滝で雨乞い
- 5/28 小山田村ノ水、奉行申請
- 6/5 郡奉行衆四人、滴石辺は権兵衛・平右衛門、和賀・稗貫は内蔵亮・喜左衛門の見廻
- 6/13 越前宰相様馬買、花巻に 1 日逗留(15 日鬼柳へ)
- 7/4 花巻城用材(御家及び矢蔵、御門、屋敷の屋根葺替え)
- 7/11 花巻で前日、下川原理左衛門家で水嶋作左衛門が下川原召仕母子を殺害、更木の藩境で討
取る(織笠庄助報告)
- 7/20 小山田のキリシタン訴人
- 7/24 岩間新二郎 6 月 13 日病死
- 7/27 昆小左衛門病死
- 8/3 花巻城絵図の作成、織笠庄助へ命じる
- 8/13 花巻留の鮭 1 尺、江戸へ送る(織笠庄助報告)
- 8/20 花巻城馬屋、火事(半焼、8 月 19 日付で織笠庄助飛札)
- 8/22 花巻御蔵朽米の借用申請
- 9/27 花巻着の大屋小右衛門、台へ湯治(同 29 日盛岡へ)
- 10/1 花巻四日町裏町の下雲、飢餓により自殺す
- 11/21 青山大膳様馬買、花巻御逗留
- 12/23 花巻蔵奉行の亀ヶ森三七 3 月 21 日病死
- 12/29 上野半左衛門、病死
- 12/30 成嶋寺住職病死(織笠庄助報告)

【寛永 22 年=正保 2 年・1645】記載事項

- 1/10 花巻円浄寺(円城寺)観音堂、再興される。
- 2/19 花巻葛村で奥寺右馬亮、白鶴 2 羽を討上げる
- 3/21 大迫御蔵米、勘定
- 4/18 平沢勘丞(切米 5 駄)同 4 日に病死
- 5/18 北万丁目で鷲喰の鴻(オオトリ)、花巻御鳥見の三上左平次取上げ
- 5/19 根子庄助・上田九郎助、花巻御蔵米勘定書上げ
- 5/22 滴石(雫石)東膳・平沢万九(四カ)郎、花巻御蔵米勘定預状書上げ
- 6/3 江戸に御番代衆 31 人を派遣(花巻 6 人を含む)
- 6/4 八重畑の田開、300 間川崩れ
- 7/1 花巻・大迫・左羽内(沢内)の家牛駒改、仁兵衛組担当
- 7/15 花巻へ初雁討、織笠庄助所へ指令、
- 7/22 立花留で鮭 1 尺、江戸送り(織笠庄助報告)
- 9/3 味田(三田)伝内前月 30 日に病死(織笠齊宮報告)

- 10/1 黒岩村でさいかち6本伐採
- 10/7 櫛引十兵衛、前月24日に病死(将監・斉宮の報告)
- 10/15 織笠庄助、未之刻病死(下田将監の注進)
- 10/25 浜田蔵人、同23日に病死

【寛永22年＝正保2年・1645】記載事項

- 11/25 大迫通金山奉行に煙山主殿任命(相役・大釜彦右衛門)
- 12/16 花巻の荒川源之丞家火事

【正保3年・1646】記載事項

- 1/18・鶴と白鳥討取りに、大坂勘兵衛を派遣。 ・帰り雁待、花巻は下田将監
- 2/11 大迫町で27軒焼失(野田宮内・儀俄十右衛門報告)
- 2/15 安俵村の味吉山運上金(楮畑)
- 3/4 藤兵衛組大工、大迫より槐油を取上げ(3月14日にも同一記事)
- 4/6 花巻一日市町で火事(火元門屋の四郎左衛門)、織笠斉宮・下田将監報告
- 4/10 花巻の山伏、処罰される
- 5/9 花巻の鉄砲同心練習を認可(織笠斉宮・下田将監申請による、7月14日まで)
- 5/23 下似内村堰たと飯豊村知行所検地、織笠斉宮・下田将監報告
- 5/24 黒岩村虚無僧の喧嘩、一学死去
- 6/4 花巻から鬼柳に向かう小荷駄1疋、隠乗
- 6/5 大迫から、舟運で江戸へ米・大豆を送る
- 6/6 御蔵米新古の目改、蛇口孫二郎
- 6/22 関田村の百姓一家、花巻籠内等に預置
- 7/1 逃亡中の同心夫婦、花巻で逮捕
- 7/10 北上川花巻石橋留荒れた箇所、川奉行に修繕
- 7/14 初鮭、花巻高瀬留で捕獲
- 8/4 水害で花巻四日市の橋7月27日落ち、修繕用の材木釘等支給
- 8/25 厨川五兵衛、同22日花巻で病死
- 11/4 花巻御蔵米借用
- 12/26 岩手と志和、稗貫三郡の漆木改め
- 12/26 田瀬境で当領より米2駄通抜きの処、米馬とも押収
- 12/29 御目付玉山嘉兵衛・柏葉安右衛門、田瀬境で押収品下げ渡す

【正保4年・1647】記載事項

- 1/11 和賀十二ヶ村火災の被害百姓、年貢免除される
- 3/13 花巻御蔵、勘定(3月17日と同19日にも)
- 3/19 大迫と達曾部の両御蔵、勘定
- 3/22 花巻河口町(川口町)で殺傷事件(同心7人死去)
- 4/15 花巻一日市の亦兵衛卸の紫屋要望に応じ、御蔵米10駄分配
- 5/6 殿様、花巻宿泊(同13日盛岡着)
- 6/12 大迫町検断親子4人を赦免
- 6/16 伊達領欠落者、一日市勘伝二らに渡す(8月13日伊達領へ返す)
- 7/10 大迫と達曾部の御蔵勘定
- 7/20 殿様、寺林へ鷹狩(8月10日盛岡へ戻る)
- 8/22 花巻御蔵改(中嶋勘右衛門・堀内三右衛門)
- 8/23 花巻から、風損毛(台風の被害)の書上げ
- 9/30 乳井左近、同29日花巻御蔵の横で病死
- 11/16 和賀郡浮田村で鉄砲打
- 12/11 花巻より召出しの宗休へ、切米支給
- 12/14 安俵村百姓を赦免(人違い)
- 12/26 花巻蔵の年貢皆済

【正保5年・1648】記載事項 -2月15日以降、慶安元年-

1/24 花巻御給人新河(荒川)源之丞、同 20 日病死

【正保 5 年・1648】記載事項 -2 月 15 日以降、慶安元年-

閏 1/4 花巻御給人小山田内膳、同 2 日病死

閏 1/8 花巻侍衆へ、御鷹(鷹狩)の雉子を下賜

3/5 花巻から大槌へ廻米、1,221 駄片馬

3/15 土沢城、同 14 日昼時全焼

3/30 江戸商人、和賀・稗貫で黄蓮買上げ

【正保 5 年・1648】記載事項 -2 月 15 日以降、慶安元年-

4/8 花巻の中嶋作兵衛家で殺傷事件

4/24 殿様花巻を出立、江戸上り(同 21 日盛岡発)

4/25 花巻河口町(川口町)で殺人事件(御町奉行笹木治兵衛報告)

5/7 望月長兵衛、和賀と稗貫の検地から盛岡へ戻る

5/13 花巻御給人大関清左衛門子、清十郎病死

5/25 花巻高瀬留で滴石弥右衛門、鷲を討取る

6/3 江戸商人、花巻御蔵米 2,000 駄買上げ

6/14 花巻代官交代(内容の記載なし)

6/15 大迫代官、大沢甚右衛門・岩間藤兵衛任命

9/7 志和と岩手、和賀、稗貫の駒改

11/3 花巻宿泊の御馬買衆へ書状 2 通

11/12 花巻御蔵有米改

12/8 城代下田将監と町奉行笹木権之丞、花巻の公事目録を盛岡へ持参

12/11 花巻の門屋善兵衛妻子ら、中村文右衛門へ預け

【慶安 2 年・1649】記載事項

1/8 稗貫郡台村入山で熊撃ち

2/20 花巻城二丸、三丸、矢蔵、米蔵の各敷板等、買入れ依頼

3/2 和賀と稗貫の二郡春木鑄(おの)役金

3/7 岩崎の坂水屋敷に仙台領の欠落者(同 20 日返す)

3/19 北万丁目小肝入助三郎殺害事件の件で、盛岡の会所寄合に下田将監出席

4/12 花巻本御蔵奉行、御勘定相済む

5/24 和賀成島村百姓、無主馬を捕獲

5/26 和賀郡上似内村百姓、妻女殺し逃亡(6 月 6 日持地処分)

6/7 稗貫郡矢沢村高田の鳥下堤、修繕の普請

6/9 松前千勝様 3 月 29 日花巻逗留中、雄山寺で内衆の小平右馬丞切腹の調書上る

6/13 殿様申刻に花巻城着(同 14 日盛岡着)

6/23 寺林御仮屋掃掃(藩主の鷹狩準備、7 月 9 日寺林で鷹狩)

7/4 花巻城代、桂七郎兵衛を任命(相手・下田将監) 注-桂は、400 石で南御仮屋住まい

7/6 もと花巻城代織笠齊宮、妻子とも引っ越し

7/9 殿様、寺林へ鷹狩(7 月 26 日花巻から郡山城を経て盛岡へ戻る)

7/16 花巻より御鷹の雲雀参着

7/30 花巻河口町(川口町)の加賀伝兵衛訴状

8/27 花巻八幡寺、盛岡の永福寺後住に就任

9/3 花巻大田村の森腰帯刀屋敷で百姓助十郎鹿討ち殺す

10/24 追鳥奉行と同心 2 名、寺林へ派遣

12/24 花巻蔵で同 22 日、米の盗難と放火(翌年 2 月 1 日に犯人 2 人を成敗)

【慶安 3 年・1650】記載事項

1/17 大迫村代官に、高杉市左衛門・鬼柳吉左衛門を任命

1/21 稗貫郡根子村代官に、本堂助兵衛・四戸金之丞を任命

2/11 花巻と石巻間の舟米駄賃、100 石で 435 文

2/23 花巻の船修繕に、船大工 7 人を派遣

3/7 花巻御蔵、勘定済

- 3/16 稗貫郡松林寺地藏堂退転のため、建立の勧進廻し手形別当へ
- 3/19 豊沢川洪水
- 3/25 殿様、花巻を江戸へ向け出立(同 24 日花巻に逗留)
- 4/2 花巻御蔵有米改印を付ける(同 5 日花巻蔵米改)
- 4/6 高杉七郎兵衛と菊池帯刀へ、代官在任中、駕籠廻り 1 人と小者 6 人つける
- 5/1 花巻へ、大工又右衛門を派遣
- 5/14 花巻と郡山御蔵米、改済
- 6/10 花巻四日町の荷宰領藤七、牢屋入り(荷を川に落した科で)
- 6/15 漆戸勘左衛門、花巻御作事調査に花巻へ来る
- 6/29 花巻御代官(代官所名不明)、菊池帯刀の相手に沢田長兵衛を任命

【慶安 3 年・1650】 記 載 事 項

- 7/1 花巻から石巻へ送る御船米駄貸銭割付を指示
- 7/27 大迫御蔵有米の調査
- 8/14 真鴨 1 羽、花巻の雫石弥右衛門、討ち上げる
- 8/17 花巻鷹鳥屋改
- 8/19 花巻二郡中御漆攪(かき)奉行に 2 名、同心 1 名申上る
- 8/22 和賀稗貫二郡で給所の検地
- 10/21 橋場番所で大迫町町人を逮捕
- 閏 10/2 稗貫郡西晴山御百姓共、御蔵入地で御炭焼を理由に給所入り反対を代官に訴え
- 閏 10/7 大迫達曾部御蔵有米、改済
- 11/14 南成嶋村大森仁兵衛、火事により年貢猶予

【慶安 4 年・1651】 記 載 事 項

- 2/6 花巻へ御鷹遣わされ、中野門助を派遣
- 2/28 広隆寺から上の橋中川原へきた西念の身柄を、広隆寺に引き渡すよう、指令
- 2/29 安俵村の御百姓共、花巻御代官に目安を上げる
- 3/1 花巻御代官交代、山口茂左衛門→鈴木伊兵衛
- 3/9 花巻四代官所の百姓飯米借用
- 3/14 花巻御蔵勘定目録 1 通上がる
- 3/22 花巻小山田村石鳩岡で御鶴巢 1 巢を発見
- 3/24 南鬼柳村百姓、伝馬と仮屋番について訴状
- 3/25 花巻御蔵勘定改
- 3/26 北鬼柳・黒沢尻・二子の百姓、渡し船で訴状上る
- 4/1 ・大迫達曾部御蔵勘定目録 1 通上る
 - ・大迫達曾部御蔵奉行、平沢万右衛門(相手小森羽多左衛門)
- 4/18 鬼柳町で火事
- 4/22 郡山・花巻御蔵改の書付 3 通上る
- 4/23 大迫達曾部御蔵有米改書付 2 通上る
- 7/27 殿様今日申刻(午後 4 時頃)到着、但花巻を翌朝卯ノ刻(午前 6 時頃)出立
- 12/13 安俵村御百姓 3 人、10 月 10 日の夜火事により年貢猶予

【慶安 5 年・1652】 記 載 事 項 - 9 月 18 日以降、承応元年 -

- 2/17 東十丁目村百姓四人目安 1 通、目安箱に入れる
- 2/21 安俵村にて新田の件で目安一通
- 3/13 黒沢尻舟場に渡し守
- 4/4 大迫達曾部御蔵勘定目録 2 通上る
- 5/15 花巻城長屋門で不審者、同心取り押え
- 7/1 五大堂助九郎と仁蔵、花巻で磔の刑
- 8/22 ・岩手郡・和賀稗貫の駒改帳上る
 - ・花巻で雫石弥右衛門が二番黒鶴 1 羽、鹿討弥兵衛が三番黒鶴 1 羽、各自討上
- 8/25 雫石弥右衛門、寺林之内馬場で黒鶴 3 羽一放を討ち、花巻より上げる
- 8/30 ・雫石弥右衛門、和賀郡二枚橋で真鶴 2 羽、討ち上げる ・花巻御給人一条弥内死去

9/22・野田茂太夫、花巻中漆攪(かき)より、今日帰る・鹿討弥兵衛、真鶴1羽花巻より討上げ。
10/7 本宿弥兵衛、和賀・稗貫の東根通漆攪より帰参

【承応2年・1653】記載事項

2/26 花巻の雫石弥右衛門、白鳥2羽を討上げ
3/4 花巻御蔵御勘定相済目録1通(同9日花巻初蔵勘定済み、同13日黒沢尻蔵勘定済み)
4/10 花巻弁才天で湯立(八幡寺ほか5ヶ寺、同14日守札上る)
4/15 花巻御城観音と円満寺観音に対し、御初尾20俵ずつ送る
4/17 稗貫郡長谷の観音へ御初尾米20俵、長谷寺へ遣す
4/23・花巻の金剛院から御札守2箱(内1箱は御下屋敷へ)
・和賀郡太田で秋田領の者、春木盗伐し、道具押収。
5/2 花巻の八幡寺巻数と八幡別当御札守、円満寺観音別当御札守・観音寺御守、差上
5/3 花巻の長谷寺御札上る

【承応2年・1653】記載事項

6/16 仁左衛門五人組、花巻龍舎へ
6/22 嶽妙泉寺、墮落露見し、処罰(翌年1月16日後住に宝鏡院、4月3日に新山寺)
閏6/1 野村安右衛門召遣の作右衛門花巻へ引越し、五人組なし由、親徳右衛門の親類たる裏町の藤右衛門と一日市の嘉兵衛門、徳右衛門の3人に預置く
閏6/3 大迫達曾部本蔵御勘定目録1通上る
閏6/15 湯口の松倉金山で隠れ掘、入牢
閏6/19 殿様、花巻1泊(翌日郡山へ)
閏6/29 殿様花巻へ鷹狩り(盛岡発から郡山で朝食、花巻へ夕方着)
7/4 花巻で御鷹の雲雀(ひばり)110縄、今朝遣す(同5日にも同一記事)
7/10 鳥討(白鳥と鷹)、花巻の雫石弥右衛門と鹿討弥兵衛に指令
7/11 花巻蔵御勘定目録1通
7/23 殿様前日花巻宿泊(同日盛岡城に着)
8/12 花巻で白鶴、雫石弥右衛門討上げ
8/16 大迫の万右衛門家土蔵へ盗人(同24日盗人逮捕され、斬首)
8/18 宮野目の源助、目安箱1通
9/5 光林寺藤沢で病気、後住につき書状(翌年3月25日後住に藤沢の常住院)
9/23 八幡通検見役、盛岡へ帰る
10/1 和賀稗貫二郡の検見(同13日大迫通検見)
10/19 花巻同心10人へ証文
10/30 花巻御給人中嶋作兵衛、同21日花巻で病死
11/10 江戸屋敷詰番、花巻へ書状
11/15 花巻西根通より攪漆13盃上る
11/17 浮田村番所で、抜荷発見
12/25 花巻城交代、桂七郎兵衛→岩間左市介(相手・下田将監) 注-岩間は、200石で南御仮屋住い

【承応3年・1654】記載事項

1/2 花巻御給人衆、年始の目見え
1/5 昌歆寺へ、寺領30石寄進
3/9 八幡寺後住、八幡寺は長谷寺で隠居
3/12 照井与五右衛門、知行所の豊沢川崩れにより、知行所変更
3/14・矢沢村古荒、新田開き 継目の八幡寺と妙泉寺、藩主に目見え
3/20 鬼柳町で火事、14軒焼失(城代岩間左市助報告)
3/27 北上川矢沢村三丁鮭留、金3匁
4/26 花巻御蔵御勘定目録1通(同21日に大迫達曾部御蔵御勘定)
5/4 花巻御給人笹木理助子、ミの、江戸へ上り
5/14 嶽妙泉寺で十一面供養法
8/1 六番鮭1尺(雌)、花巻立花留で取上る(翌2日に七番鮭1尺、花巻高瀬留で)
8/12 永井理右衛門、江戸上屋敷台所に任命、江戸上り

- 10/22 花巻東根通漆攪で 16 盃、花巻西通御漆攪 15 盃を攪く
11/2 和賀郡田瀬村と毒沢村、砂子村で雉子村追い(鳥畏御運上雉子ほか禁獵の手形)
12/22 花巻分六代官当御年貢米、昨 21 日迄で皆済

【承応 4 年・1655】(4 月 13 日以降、明暦元年) 1 年分欠落

【明暦 2 年・1656】記 載 事 項

- 1/20 鬼柳通代官交代、七戸勘之丞→永井理右衛門
閏 4/16 花巻御城に弁材天を建立、稲荷三社御堂入る
5/8 花巻・黒沢尻間の川下りの船、花巻で下々調持 13 艘ほか、郡司与左衛門船 3 艘
5/29 稗貫郡西根中(台から仙人まで)鉛の採掘を許可
6/26 無断で馬宿経営の花巻四日町裏町の庄吉、成敗される
7/4 花巻蔵御勘定目録 1 通上る
7/9 岩手と雫石、志和、稗貫、和賀中の駒改め
9/27 花巻蔵御勘定目録 1 通上る
10/12 花巻城交代、岩間左市助(御下屋敷御留守役就任)→柴田長左衛門(相手・下田将監)
注一柴田は、300 石で南御仮屋住い
11/17 花巻御給人堀内三右衛門家、火事で焼失
12/6 前年分の大迫蔵御勘定目録 1 通

【明暦 3 年・1657】1 年分欠落

- 「花契」(『花巻市史 年表編』)では、
1/18 江戸大火
3/15 江戸下りの藩主、盛岡着(3 月 1 日江戸発、郡山から徒歩で盛岡入り。街道の曲線直しと両側に松植林を指令)
月日不明 花巻城代の交代、柴田丁左衛門→一方井刑部(700 石、南仮屋)

【明暦 4 年・1658】記 載 事 項 -7 月 23 日以降、万治元年-

- 1/25 稗貫と和賀中の鳥討に乳井高助と雫石九十郎を任命(鉄砲 2 枚城代衆に)
2/23 和賀と稗貫中へ御鶴の単元探索に小鳥谷村の丹波来訪
3/23 盛岡城下葺手町居住の絵書金右衛門、江戸遊学し藩御用に役立ち、町役免除
3/29 殿様、今日花巻出発(江戸上り)
5/25 和賀・稗貫・遠野・閉伊の御郡奉行(下川理左衛門・安田覚太夫)、戻る
6/14 花巻蔵御勘定目録 1 通(蔵奉行は堀内二右衛門・仙台次郎兵衛)、粃 7032 駄
6/15 明暦 2 年分の花巻蔵米勘定目録 1 通(蔵奉行土川忠左衛門・山屋万左衛門・岩清水長兵衛)、
米 10344 石余
6/27 明暦 3 年分の花巻蔵米勘定(米 18,067 石余、大豆 184 石余)
7/3 花巻城代に初鶴討の命令、乳井高助を指名
8/3 花巻高瀬御留で鮭 1 一尺、雌 1 尺取上る
8/11 黒沢尻蔵米明暦 3 年分勘定目録、米 7360 石余(蔵奉行高橋八郎右衛門・小森林新左衛門)
閏 12/4 田瀬番所番所蛇口円吉、追落の品々の書付 1 通、御城代へ(12 月 9 日処置)
閏 12/23 大迫蔵御勘定目録 2 通
※追加 「花契」(『花巻市史 年表編』)では、
月日不明 花巻城代の交代、下田将監→望月長兵衛(200 石、北御仮屋住まい)

【万治 2 年・1659】1 年分欠落

【万治 3 年・1660】1 年分欠落

- ※追加 「花契」(『花巻市史 年表編』)では、
8/3 500 石以上の諸士の身帯没収 11 名
月日不明 花巻城代の交代、望月長兵衛→松岡覚右衛門(200 石、北御仮屋住まい)

【万治 4 年・1661】記 載 事 項 -4 月 25 日以降、寛文元年-

- 2/19 狩野法眼弟子治部郷、諸国修業のため江戸より罷下り(仙台町奉行より花巻御城代への添状あり)
- 2/25 花巻川口町馬宿の掃部親子、欠所処分
- 3/27 大迫町で2月26日晚四ツ時より出火、25軒焼亡(郡山城代の報告)
- 4/1 花巻御給人金田一八郎右衛門家、馬屋より出火
- 4/28 花巻へ放し目付を派遣(馬の出入りを監視)
- 5/10 花巻太田村敬右衛門、春木場にて熊仕留る
- 6/27 和賀郡煤孫村間野山で銀鉱石発見、山奉行の昆野小左衛門・岩間長吉ら検分
- 7/15 殿様、江戸から花巻着(城代一方井刑部報告、同5日江戸発、同16日盛岡着)
- 8/9 成島和紙の規格を指令
- 8/10 家禄召上げを花巻城代に指令(川口左近、一条覚左衛門、佐藤外記、辻五郎右衛門、川村喜右衛門ら6人)
- 8/12・花巻から瓜15、盛岡へ送る・跡目不可、小屋敷与五兵衛(平左衛門子)と荒木田勘三郎(同左内子)、屋敷と知行地没収(知行所は蔵入り)
- 8/21 花巻御給人苦米地長左衛門百姓、彦左衛門持地の件で目安へ
- 8/24 中内御百姓又蔵、同村但馬との地論の件で許状1通目安箱へ
- 8/28 花巻城交代、一方井刑部(翌年4月28日急死)→高野庄兵衛
(相手・松岡覚右衛門、500石で南御飯屋住い)

- 閏8/1 花巻酒屋2軒に、当年分の礼金上納指令
- 閏8/21 鈴木弥五右衛門の花巻留守宅の妻子へ3人扶持支給

【万治4年・1661】記 載 事 項 - 4月25日以降、寛文元年 -

- 9/22 光林寺住職病死(高野庄兵衛報告)
- 10/10 花巻黒沢尻へ御米改め
- 11/1 花巻の春木値段
- 11/5 花巻蔵目付に、鈴木左内・高浜弥太夫を任命(城代内申を認可)
- 11/14 代官交代、駒木次郎三郎→野辺地弥五左衛門(相手・煙山仁右衛門)
- 12/12 雄山寺住職、水沢大林寺住職へ移り、鬼柳通行の手形を交付
- 12/25 花巻城代、御歳暮に鱈2本と樽1荷などを献納

【寛文2年・1662】記 載 事 項

- 1/15 花巻代官交代、沢里十兵衛→日野左五右衛門
- 1/17 花巻蔵米25駄、宮野目村三助後家へ支給
- 1/20 宮野目村三助後家、花巻御町に居住中、以後御町役より支給
- 4/7 中野吉兵衛、台へ湯治
- 4/12 花巻城御家(本丸御殿)修繕用の材木、筏で下す
- 4/15 城代相談し、困窮の花巻御給人へ粃米350拾駄貸出す
- 6/12 花巻御蔵粃御勘定目録1通(奉行、久慈弥二右衛門・堀内三右衛門)
- 7/18 親追放の吹張町清吉従者、盛岡辺に住居、鬼柳境へ追放する
- 7/20 鬼柳通代官交代、中村門右衛門→夏井弥左衛門(相手・大須賀九郎右衛門)
- 8/13 鬼柳通代官交代、大須賀九郎右衛門→藤田多左衛門(相手・夏井弥左衛門)
- 8/19 永福寺住職、台へ湯治
- 9/10 花巻城交代、松岡覚右衛門(御中屋敷留守居就任)→柴田長左衛門(300石、南御飯屋住い)
- 10/13 大迫蔵御勘定、寛文元年分相済、目録1通
- 11/3 今晚花巻に御馬買衆未ノ刻(午後2時頃)到着、花巻宿泊

【寛文3年・1663】記 載 事 項

- 2/19 花巻八日町酒屋与兵衛、経営不振で酒屋を廃業
- 3/21・花巻御給人新渡戸伝助跡、子九助の相続を承認(地方100石)
・大関佐左衛門跡の子金右衛門へ御蔵米10石支給
- 3/24 松岡覚右衛門方同心30人、花巻より引っ越し
- 7/21 花巻御給人榎引弥五右衛門、親の跡目相続承認(御横目・天野十兵衛の申渡し)
- 7/26 花巻御代官に工藤権太夫を任命(相手・長坂太郎兵衛)
- 8/3 花巻御給人の次三男七人の内、奥寺二郎吉・根子皆之助・柏葉弥右衛門・松尾清左衛門の

4名を留め置く

- 8/11 江戸留守居交代、桂七郎兵衛(8月2日病死)→花巻城代柴田長左衛門(相手・山田半兵衛)
- 10/11 花巻城代に、赤尾又兵衛を任命(相手・高野庄兵衛、700石で北御仮屋住まい)
- 11/4 柴田長左衛門同心30人、赤尾又兵衛預り

【寛文4年・1664】1年分欠落 ※追加 「花契」(『花巻市史 年表編』)では、

- 10/21 藩主重直公死去
- 12/8 幕府の裁断で盛岡藩二分され、七戸隼人(のちの重信)へ8万石、中里数馬(のちの八戸藩主直房)へ2万石。

【寛文5年・1665】記載事項一 若殿(行信)盛岡滞在、6月藩主初入部一

- 1/27 根子彦助子の清丞自害(町奉行の沢田長兵衛・太田平右衛門報告)
- 2/28 和賀郡浮田で隠米通行発覚(米馬散乱し逃亡)
- 4/3 花巻御蔵奉行に四戸勘十郎を任命(相手・岩清水長兵衛)
- 5/16 鬼柳通代官交代、夏井弥左衛門→中村門右衛門(相手・鈴木久太郎)
- 5/29 もと花巻城代赤尾又兵衛、依頼により家禄没収となる(当時大湯城代であった模様)
- 6/1 盛岡・鬼柳間の道橋普請を指令
- 6/4 殿様御迎として、八内様花巻へ御出になる
- 6/5 殿様西ノ刻花巻着(城代松岡覚右衛門報告、江戸より、6月7日盛岡着、若殿同行)
- 6/19 花巻城代に高野庄兵衛を任命(相手・松岡覚右衛門)
- 7/6 花巻・中嶋村与右衛門、御祝儀に肴1折献上
- 7/8 大迫代官(御蔵奉行兼任)に高杉市左衛門・新渡戸九助を任命

【寛文5年・1665】記載事項一 若殿(行信)盛岡滞在、6月藩主初入部一

- 7/8 花巻蔵奉行(御蔵兼任)に岩清水長兵衛、戸来甚左衛門・四戸勘十郎を任命
 - 7/13 石巻の与四郎、花巻御蔵米1000駄買い取り、伊達へ荷送り
 - 7/28 花巻鳥見交代、十二ヶ村十左衛門→玉山与十郎
 - 8/23 花巻二枚橋で真鶴1羽、今朝中野新左衛門討ち上げる
 - 10/19 花巻城交代、松岡覚右衛門→江刺勘兵衛(相手・高野庄兵衛、1500石で北御仮屋住まい)
 - 10/22 若殿様、花巻へ鷹狩
 - 11/11 若殿様、花巻へ鷹狩
 - 11/20 櫛引古別当、即性院(重直公)下賜の掛け軸(狩野安信及び竹翁作品)を返納
 - 12/17 嶽妙泉寺住持に、新山寺覚垂院転院
- ※追加 「花契」(『花巻市史 年表編』)では
- 11/13 扶持方支給について計り立てから米俵にて12月から実施
 - 12/28 藩主へ従五位下左衛門作、若殿へ従五位下信濃守を叙位。

【寛文6年・1666】1年分欠落

- ※追加 「花契」(『花巻市史 年表編』)では
- 5/19 公儀お預かり人の京極丹後守盛岡着

【寛文7年・1667】記載事項

- 3/22 毛馬内九左衛門、台へ湯治(3月28日盛岡へ戻る)
- 4/5 大迫・亀ヶ森の2ヶ村、鳥運上
- 4/25 花巻分御検地(竹林五兵衛、奥寺八左衛門、江刺家兵左衛門検地高目録持参)
- 5/6 大迫代官に松岡武兵衛を任命(相手・新渡戸九助)
- 6/8 花巻の御鷹師米内太郎兵衛、盛岡への道中で追いはぎを討取る
- 6/19 殿様6月8日江戸出発、6月18日晚花巻に宿泊
- 6/30 松林寺祭礼、別当より守札等奥様へ差上げ
- 7/1 荒木田勘三郎、工藤平八子の長三郎、上田太兵衛子の喜兵衛、盛岡城で御目見え
- 7/7 鉄砲討として花巻の乳井高助・零石九十郎・切田弥兵衛任命
- 7/15 花巻城交代、江刺勘兵衛(江戸上り)→当分葛巻新六郎(翌年1月17日正式に異動通知)
- 7/23 和賀堰検分に青木浄心を派遣

- 8/10 巡見使、花巻入り(8月12日出発)
- 9/9 石沢久太郎、御配膳を辞め花巻御給人となる
- 9/13 花巻町奉行交代、太田平右衛門→岩間藤兵衛
- 12/19 花巻一日市裏町火事、火付の下人成敗を指令
- 12/21 花巻城しゅら貝の検分

【寛文7年・1667】 記 載 事 項

※追加 「花契」(『花巻市史 年表編』)では

- 8/28 郡山城御家取り壊しに松岡八左衛門と松尾吉左衛門、大工らを派遣
月日不明 この年領内総検地、目付奥寺八左衛門と竹林五兵衛を任命

【寛文8年・1668】 記 載 事 項

- 1/2 中野新左衛門(同善四郎弟)、高浜弥三郎(同弥太夫子)盛岡城で目見え
- 1/11・花巻御給人供登の指令、御納戸・平賀弥右衛門、御金奉行・鈴木小右衛門。・花巻鳥討に、乳井高助と中野新左衛門
- 1/17 花巻城交代、江刺勘兵衛→葛巻新六郎(1300石、北御仮屋住まい)
- 2/24 近年の不作で作付け不能を百姓共訴え、鈴木伊兵衛・中垣善四郎・永井二郎助・長坂二郎兵衛・羽黒堂八左衛門・中村門右衛門ら花巻三御代官共預りとなる
- 4/2 花巻四日町裏町で前日火事、18軒焼失
- 5/20 花巻御給人羽黒堂八左衛門と伊藤次郎右衛門、高橋八郎右衛門、欠上作右衛門、先年の訴訟要望了承される
- 6/23 花巻蔵米2000駄納入分を泉屋七右衛門申請し、仙台領へ買付けのため、舟運通行手形、黒沢尻番所へ今日交付する
- 6/24 御領分中御蔵入・御給所方百姓、年貢役等未進及び金地米銭借用で逃散百姓、軽犯罪者で和賀・稗貫郡内の新田へ隠れているものたちに対し、元の農村への帰郷を勧告(家老連名書状)

【寛文8年・1668】 記 載 事 項

- 6/28 松竹寺別当、御祭礼の後、御守礼と張箱、団子、菓子を奥様みよし様へ献上
- 6/29 大迫代官(御蔵奉行兼任)交代、新渡戸九助→根子才兵衛(松岡武兵衛相手)
- 7/2 殿様、郡山昼休み、花巻1泊(同13日江戸着)
- 7/11 花巻川通番所交代、浜田甚五兵衛→美濃部作左衛門
- 8/20 花巻二枚橋で中野新左衛門、黒鶴1羽討上る
- 9/6 花巻一日市町五郎吉、琵琶沢で落黒鶴1羽発見
- 9/9 花巻川口町久左衛門家作のため、盛岡で材木買揃える
- 9/12・盛岡で買揃えた材木筏下しの覚(花巻一明院と花巻一日市町善右衛門、花巻町奉行沢田長兵衛・岩清水長助裏判の手形交付) ・黒沢尻蔵米50駄、花巻一日市九兵衛払受け、他領通行手形
- 9/19 盛岡にて買揃えた柁筏下しの覚(花巻川口町治右衛門)
- 10/7 松前兵庫様より、花巻御給人で鬼柳御番仕の佐藤長右衛門と須々孫治助、鬼柳代官の中村門右衛門と羽黒堂八左衛門、黒沢尻渡の江刺家門太夫へ木綿下賜(花巻御城代葛巻新五郎・高野庄兵衛、前日付で報告)

※追加 「花契」(『花巻市史 年表編』)では

- 2/1 江戸桜田藩邸焼失
月日不明 花巻三代官から八代官に増員

【寛文9年・1669】 記 載 事 項

- 1/15 今日御家中高知及びに花巻御給人、盛岡城御居間で御目見え
- 1/11 花巻鳥討に乳井六右衛門・雫石九十郎任命
- 2/7 黒沢尻川舟通改交代、浜田甚五郎兵衛→鶏冠井四郎右衛門
- 3/6 羽黒堂半之助、2人扶持で召出(盛岡蔵から支給)
- 3/21 松前兵庫様、花巻で風邪(同22日盛岡着)
- 3/22 毛馬内九左衛門、台へ湯治(4月3日盛岡に戻る)
- 4/10 和賀郡仙人銅山改め

- 5/28 殿様、江戸より盛岡着
- 6/15・花巻分寺社方の正観(昌歆)寺、松林寺別当、胡四王別当、光林寺今日参礼 ・花巻御給人42人の御礼銭 ・殿様御下向御目見え御礼、御役付の花巻御給人沢田長兵衛、松岡三太夫、田頭多左衛門、岩間一郎助、須々孫治助、欠端八兵衛、宮野重次朗、伊藤庄右衛門、平沢万右衛門、糠塚弥左衛門、高橋藤兵衛、左越(佐越)吉左衛門、柏葉安右衛門、金田市伝左衛門、伊藤次郎右衛門の15人(笹木仁左衛門は御普請のため参礼せず)
- 6/24 花巻所の川崩の報告
- 7/1 花巻松林寺地藏祭礼6月23日終了(別当、人形や張り子の虎などを奥様と姫様へ差上げ)
- 7/10 花巻御給人石川兵五郎、御扶持被召上
- 7/11 花巻の羽黒堂八左衛門新田所、検地
- 7/12 跡式、花巻御給人一条弥五郎→子弥太郎
- 8/19 花巻二枚橋で中野新左衛門、二番菱喰を討上る
- 8/26・和賀郡水沢川鉛山の採掘、花巻治左衛門と同嘉左衛門に認可(以前は藤右衛門が採掘)
- 9/3 花巻で大里十三郎、真鶴1羽討上る
- 9/4・鬼柳通代官に坂牛伊右衛門・吉田二郎右衛門を、安俵通代官に荒木田甚左衛門・栗谷川仁右衛門を、江釣子通代官に久慈采女・雫石左五右衛門を任命。
- 9/4・二子通代官に近内権介・田鍍庄助を、西十二丁目通代官に平館重右衛門・山口金右衛門を、南万丁目通代官に江刺家六右衛門・夏井門右衛門を、寺林通代官に高屋六右衛門・立花佐左衛門を、八幡通代官に佐藤善兵衛・小笠原清兵衛をそれぞれ任命
- 9/9 花巻御給人夏井弥左衛門、坂水又十郎御目見え、各鳥目20匹
- 9/13 盛岡花巻新御代官14組、堅目勘定所で申付、御目付四戸金左衛門派遣
- 9/14 花巻新御代官8組、盛岡新御代官6組へ御伝馬証文交付、花巻へ赴任する新代官に10駄支給、切米衆には花巻逗留中各1人扶持ずつ支給
- 10/21 二子村永明寺住持悪僧により追放の訴えを許可、花巻城代へ指令(10月25日本山の報恩寺へ什物目録届く)
- 閏10/1 花巻一日市町善九郎、盛岡で揃えた材木を筏で下す
- 閏10/3 稗貫郡太田の瀬沢鷹堂屋の2ヶ所、金銀銅鉛見立を要望
- 閏10/16 花巻御給人川村茂兵衛、乱心にて妻殺害(閏10月21日花巻で切腹、松庵寺に埋葬)

【寛文9年・1669】 記 載 事 項

- 11/21 稗貫郡葛村新田所200石についての子孫分配許可される
- 11/27 花巻城代に、四戸金左衛門任命(相手・高野庄兵衛、注-300石で北御飯屋住まい)
- 11/28 御居間で継ぎ目御礼、花巻御給人根子源左衛門、神山太兵衛
- 12/26 花巻川口町で火事、二郎右衛門より出火、11軒焼失 注-「花巻年契」では12月24日

【寛文10年・1670】 記 載 事 項

- 1/19 江戸役の交代、昆小左衛門→金田市太郎兵衛
- 2/6 花巻御給人太田半兵衛、跡式相続許可される
- 2/20 花巻反町で火事、7軒焼失
- 2/22 江戸上りの殿様、花巻宿泊
- 2/29 和賀郡東根御検地
- 3/15 御袋様、台へ湯治(4月5日盛岡へ戻る)
- 5/20 若殿様未ノ刻花巻着(5月21日盛岡着)
- 6/10 例年瓜献上の花巻里川口の右京進・源左衛門・半九郎、諸役を免除
- 7/17 花巻御給人小森林与五左衛門と乳井六左衛門、跡目相続許可
- 8/10 鬼柳通代官交代、吉田太郎左衛門→小川伝左衛門(相手・坂牛伊右衛門)
- 8/24 花巻成嶋安俵通の当春の御検地で出目の分指令
- 9/18・花巻御給人欠端喜蔵孫の金十郎病死により、弟喜兵衛の名代奉公許可
・大迫代官交代、根子才兵衛→鬼柳清右衛門(相手・松岡武兵衛)
- 11/27 根子才兵衛へ花巻で奉公の指令
- ※追加 「花契」では、
- 9/7 御奥方、松林寺参詣、同所にお泊まり。警護に小野寺惣左衛門と奥寺孫左衛門、同心10人付く。

- 9/28 瑞興寺より、弁財天花巻城西御門脇へ立て直し、代物祝儀は別当金剛院へ。
 10/ 3 御袋様台で湯治（10月18日まで）。花巻から糠塚義左衛門、中野新之丞、上田喜兵衛、松岡三太夫を派遣、公儀買馬人鬼柳宿泊、城代四戸金左衛門馳走に詰める。

【寛文11年・1671】 記 載 事 項

- 1/21 鬼柳通代官交代、小川伝左衛門→岩根又兵衛
 1/27 黒沢尻物留奉行に田中武兵衛・村瀬源左衛門を任命
 3/14 御袋様、台へ湯治（3月26日盛岡に戻る）
 3/15 大迫町検断、1人から3人に増員
 4/13 鬼柳通代官に下斗米九右衛門就任（相手・坂牛孫左衛門）
 5/30 花巻一日市御仮屋の十兵衛病死
 7/ 1 花巻鉄砲討に大里重三郎・雫石九十郎を任命
 10/2・花巻御蔵奉行、伊藤庄左衛門・上田弥兵衛1組増加、計3組
 10/3 花巻御蔵米1000石、石巻へ送る
 10/21 殿様、花巻に10月20日泊り
 10/23 大奥様10月4日死去し、遺体迎えに花巻の柏葉安右衛門・松岡三太夫・猪去弥平次・新渡戸九介を派遣 注-迎えの人名に鹿討六兵衛と小山田宇右衛門、遺体は雄山寺入り。
 11/25・大迫代官交代、鬼柳清右衛門→三ヶ尻又次郎 寺林通代官交代、高屋六右衛門→吉田二郎左衛門
 11/25・十二丁目通代官交代、山口金右衛門→浅水空
 11/27 和賀郡水沢銅山から銅、他領へ移送
 11/28 花巻御給人煤孫治助と中村善四郎の跡目相続、許可
 12/11 花巻の猿賀伊助、次男弥十郎へ切米10駄分与許可される
 12/19 花巻太田村昌観寺隠居、後持に江釣子村全明寺就任
 12/21 成島寺領御検地の打減りの訴え
 ※追加 「花契」では、
 1/24 升改め。町奉行岩清水長助、新升30ヶを花巻三町へ配るため、検断へ渡す。江戸より取り寄せ。
 1/25 与力新田に不足高。
 7/23 浮田と立花の境番所勤務の知行取りの御給人、自分賄いから、切り米取り2人ずつ、扶持方1人1日6合積もりに待遇変更

【寛文11年・1671】 ※追加 「花契」では

- 8/20 下堀あせで浚ぎ普請
 8/ 地震で町屋10軒倒壊

【寛文12年・1672】 記 載 事 項

- 1/15 花巻で無禄で奉公の21人、2人扶持ずつで召出し。中野与左衛門、藤根六左衛門、夏井七兵衛、柏葉清之丞、柏葉弥右衛門、金田一忠之丞、平沢加兵衛（嘉兵衛）、佐藤十次郎、佐藤十三郎、鈴木権九郎、小野寺助之丞、三田金之丞、中島万兵衛、笹（佐々）木惣太郎、鹿内（鹿討）長兵衛、江刺家森之助、金屋（金矢）甚七、小屋敷金兵衛、欠端嘉太夫、小野寺山三郎、吉田六郎右衛門 注-柏葉清之丞は、同泰之丞カ、江刺森之助は同吉之丞か
 1/23 花巻御給人高橋八郎右衛門新田扱い（60石）
 2/3・高橋瀬兵衛と一方井重兵衛、病死 川口町二郎左衛門、鱒献上
 2/18 花巻居住の松田与兵衛と吉田次郎左衛門へ、田名部松山御用のため移住を指令
 3/28 神山伊助、江釣子左五右衛門、重茂斎宮、小田代市兵衛、洗濯休暇で花巻へ戻る
 4/5・跡目（跡式）、高橋瀬兵衛→子の伝四郎 跡目（跡式）、一方井甚兵衛→子の庄二（太郎） 跡目（跡式）、長沼平左衛門→子の甚五右衛門
 4/9 花巻御鉄砲討雫石九十郎・大里十三郎御鉄砲判2枚上る
 4/15・花巻御給人一方井庄太郎、跡目御礼申上げ 松林寺地藏堂、屋根葺替のため勧進を許可
 4/20 花巻へ運賃50両、鬼柳三右衛門同心六之助、嶋川十兵衛・長左衛門ら運搬
 4/22 郡山・花巻の新田見分に長谷川又左衛門と奥寺八左衛門派遣
 5/5 檜山七左衛門、台へ湯治

- 5/26 花巻御代官(安俵通)任命、豊川平左衛門(相手・栗谷川仁左衛門)
- 6/9 和賀郡水沢銅山の産銅、領外への運送を許可(山先川口町喜衛と煤孫村伊兵衛あて)
注-7月9日、8月19日にも記載あり
- 6/23 大迫町検断の跡目願
- 閏6/8 花巻へ鷹狩りのため、定右衛門組吉田重助派遣
- 〃 6/23 花巻与力要望者 35 名へ証文交付(花巻御城代への書付)
- 〃 6/28 殿様牛ノ刻(午前2時頃)出発→昼休み郡山→花巻宿泊
- 注-「花契」では6月29日大雨のため北鬼柳の与左衛門家に逗留(町奉行沢田長兵衛報告)
- 7/4 花巻へ御鳥討に雫石九十郎と大里十三郎、御鉄砲持1人
- 7/18 去る7月8日晩の大雨による洪水で花巻城廻り破損(修繕は御普請とし蔵入地百姓より人足を負担)
- 7/19 花巻通撤(せり)駒役人に、沢田長兵衛と岩清水長助、近内権四郎を任命
- 7/21 花巻御蔵米 2,000 駄、仙台の泉屋七右衛門へ払下げ
- 10/18 台で湯治中の御袋様、風邪ひき
- 10/20 黒沢尻川通番交代、杉沢六兵衛→下田十右衛門(相手・美濃部作左衛門)
- 10/29 稗貫郡二枚橋野野地を御蔵新田扱いで新田の開発するため、希望者募集
- 12/8 山師仁助、大迫・宮坂御金山で注進
- ※追加 「花巻市史 年表編」
- 3/末 豊沢丁で火事
- 閏6/14 馬場口に番所立つ
- 8/16 破損した鳩岡崎御仮屋廃止、その廃材黒沢尻御蔵へ移す
- 8/19 台湯元へ御仮屋新規新築(規模は12間に3間、台所は5間に3間)
- 10/20 定心院、台で湯治
- 10/25 御袋様、胡四王参詣、よる5時花巻御城宿泊
- 10/28 湯口村肝入喜左衛門から、浅野長政書状差し上げ。

【寛文13年・1673】記載事項 -9月21日以降、延宝元年-

- 1/12 花巻の御米荷組奉行と御蔵横目に鈴木半之丞と岩間門兵衛を任命、黒沢尻へは田中武兵衛と花巻御給人1人を派遣
- 1/19・大迫蔵横目交代、遠山次郎左衛門→山屋三郎右衛門・八幡通代官交代、佐藤善兵衛→駒木二郎三郎(相役・小笠原清兵衛)・十二丁目通代官交代、平館十右衛門→下田十右衛門(相役・浅水空)・鬼柳通代官交代、坂牛孫兵衛→もと盛岡御蔵横目の遊座善兵衛(相手・下斗米九右衛門)・長岡通代官交代、江釣子七郎兵衛→川井左兵衛(相役・四戸平兵衛)
- 2/19 石巻の米宿阿部甚左衛門へ、花巻御蔵より、米20俵支給

【寛文13年・1673】記載事項 -9月21日以降、延宝元年-

- 2/28 花巻新蔵米 2,000 駄売却
- 3/9・花巻瑞興寺へ永代証文(北万丁目村の新田 50 石分、6月29日お礼申上) 注-「花契」では3月10日で15石とある。・花巻高松寺へ加増証文(4石加増、計10石)・瑞興寺と高松寺から絵3幅ずつ御取上
- 4/9 黒沢尻川通改奉行交代、鶏冠井四郎右衛門→岸田七右衛門(相手・石井惣右衛門)
- 4/19 和賀郡水沢銅山の産銅、領外運送を許可(山師川口町喜兵衛と煤孫村伊兵衛あて)
- 4/30 大迫の宮坂近所の山で錫(すず)試掘につき、証文を交付
- 6/10 大殿様未の刻(午後2時頃)花巻に到着(御給人子供の目見え延期)
注-6月9日鬼柳一泊、岩崎古城に立ち寄り。6月11日白州で藩主に諸士、目見え
- 6/19 四戸庄左衛門孫の虎之助 12 歳、弐ヶ村甚右衛門子の大助 11 歳、岩間長左衛門子の左内 23 歳、盛岡城で藩主の都合次第で初目見えのこと
- 7/1・北上新川通し普請、7月2日の吉日より着工、物頭野々村宇右衛門、御横目松尾安右衛門、水縄張見分江刺家兵左衛門、大工奉行堀内定右衛門(大工1人同行、翌2日殿様の現場視察あり) 注-7月6日北上川八幡の後ろへ新川掘り、普請奉行石沢久太夫と伊藤武左衛門、7月8日取り付け。200石ごとに1人ずつ人足出す。延宝4年7月18日200石で人足2人。
・松林寺別当跡目、名六位へ(7月7日安堵の御例申上)
- 7/3 黒沢尻通代官交代、雫石佐五左衛門(辞任後は花巻御給人並の待遇)→清水空(相手・久慈采女)

- 7/8 花巻の鳥討、大里十三郎と雫石九十郎を任命
 7/16 仙台領との境絵図写6通1箱と申合せ書1通、花巻へ送る
 7/20・稗貫郡葛村宮野目村・中嶋村・小森林村・黒沼村、和賀郡小山田村、御検地打出により新田高200石加え、計400石 ・稗貫郡大瀬川村、北寺林村八幡村、江曾村、計200石
 8/14 花巻で三番鶴討上げ
 9/13・花巻御給人夏井三之助、高橋千太郎、四戸勘十郎、親跡目
 ・同所御給人吉田六郎右衛門跡目、悴八之丞へ(2人扶持)
 9/16 殿様・奥方、台へ湯治(9月23日盛岡へ戻る)
 注-「花巻市史 年表編」では9月11日、お供人数150人から160人、仮小屋建築。19日殿様、台から花巻城到着、女中同行。22日殿様と鶴千代、根子通で鷹狩り。女中は胡四王山参詣。
 9/30 北上川普請、翌日から再開、普請奉行に野々村宇右衛門と松尾安右衛門を任命
 10/7 北上川普請奉行らへ、本丸で御料理下渡し
 10/13 花巻城本蔵横目に宮田源六、同新御蔵横目に栃内与兵衛任命
 10/16 花巻城交代、高野庄兵衛→黒沢伝兵衛(相手・四戸金左衛門)
 注-病気の高野庄兵衛に代り、仮城代の黒沢伝兵衛赴任。宿は町口治右衛門所
 10/17 花巻御鉄砲討雫石九十郎、大里重三郎より鉄砲判2枚
 10/22 花巻川口町三郎兵衛に質屋営業の許可
 11/22 高野庄兵衛、老齢と長煩いのため、花巻城代を正式に辞任
 12/9 花巻御給人佐々木湯庵跡目、子弥兵衛へ
 12/10 成嶋毘沙門堂修繕(末社拝殿を含め6ヶ処破損の修繕で蔵米70駄借用、寺領10石一時取上げ)
 12/11 花巻東根代官交代、豊川平内左衛門→下田三太夫(相手・松田与兵衛)
 12/13 成嶋毘沙門堂破損
 12/21 新渡戸九助と下斗米九右衛門へ、来年の江戸御供上りの命令
 ※追加 「花巻市史 年表編」では
 7/24 御袋様台へ湯前堂建立、盛岡大工2両で請け負い
 11/8 仙寿院(利直側室)遺体、金ヶ崎まで大岡清左衛門受け取り(10日光徳寺着)。

【延宝2年・1674】記載事項

- 1/2 花巻御給人中村治右衛門子の作平、初目見得
 1/6 花巻御給人四戸勘十郎子の虎之助と猪去弥平次子の左伝二、御目見得
 1/11 花巻鳥討に雫石九十郎と大里十三郎を任命
 1/28・花巻町奉行交代、岩清水長助→羽黒堂八左衛門(相手・津田長兵衛)
 ・根子通代官交代、下田重右衛門→舟越孫介(相手・久慈喜六)
 ・二子通代官交代、近内権四郎→寄木嘉右衛門(相手・田鍍庄右衛門)
 ・鬼柳通代官交代、下斗米九右衛門→山田源右衛門(相手・遊座善兵衛)
 2/14 和賀郡川向中御鳥討に舟越与兵衛を任命
 2/15 奥寺八左衛門、御新田と知行地への漆植付け(蟻漆の献上を条件)
 2/19 梅木作右衛門子が昨年冬に瑞興寺弟子になったことから、作右衛門妻子3人飢渴の訴えにより、改めて同妻子へ切米を支給
 2/26 狼討鉄砲役銭申付、和賀郡立花・黒岩・湯沢・平沢・宮田・石持・浮田・小原・駒籠・中内・倉沢・田瀬の13ヶ処へ
 3/13 寺林新田奉行に栗谷川兵右衛門、岩崎御新田奉行に五日市安右衛門を任命
 3/27 殿様(重信)、花巻城に戌刻着(4/8江戸到着)
 4/7 花巻・石巻間運賃100両、表御門番嶋川十兵衛預2人持参
 4/16・松前兵庫様江戸上り、花巻宿・四日町検断黒右衛門宅。黒右衛門へ金3歩と麻上下1具、女房へ金2歩下賜 ・貞心院(重直公側室)、台へ御湯治
 5/7 花巻御蔵米600駄を売却
 6/13 水沢山の産銅につき、川口町喜兵衛・煤孫村伊兵衛の申請で、10,770貫500の1割取上げ、残り他領への運搬を許可(家老連名で鬼柳黒沢尻番所へ通行の許可を指令)
 6/17 花巻御給人欠端八兵衛病気で弟・嘉太夫を名代に(願書)
 7/7 花巻の鳥討、地討の雫石九十郎と毘小左衛門、和賀郡は舟越与兵衛を派遣

- 8/29 花巻で雫石九十郎、三番黒鶴1羽討上る)
- 9/12 水沢銅山の銅改帳1通、花巻城代より上る(当座箱入り、銅16,863貫700の1割運上)
- 9/22 江戸の桐弥市右衛門一座23人花巻入り、城代の報告(9月24日芝居興行を許可)
- 9/28・松前兵庫様、9/27花巻に1泊、盛岡未到着
- ・松前兵庫様、花巻の四戸金左衛門と黒沢尻伝兵衛に熊の皮台と泥障1指ずつ下賜、町奉行にはアザラシの泥障1指ずつ下賜
- 10/24 下米買として、松岡市兵衛と材津千右衛門を派遣
- 10/27 和賀水沢銅山の藩外への運送手形、黒沢尻鬼柳番所へ交付(城代の下書きによる)
- 11/18 大迫代官に柄内与兵衛を任命(相手・松岡武兵衛)
- 11/27 花巻御給人高橋光円、病死
- 12/8 花巻黒沢尻荷組奉行に江釣子七郎兵衛と日戸勘十郎、堀内新平を任命(新平は病気の小森林与左衛門の代りに見廻として花巻に居したことによる)
- 12/29 花巻代官(花巻東根通、立花通、高木通)交代、松田判兵衛→本堂儀右衛門
- ※追加 「花巻市史 年表編」では、
- 2/22 盛岡と鬼柳間の街道に3ヶ年計画で松と漆を植樹
- 4/17 松林寺から時鐘花巻城入り(5月20日二の丸に鐘楼建立)
- 6/13 仙台領から人返しあり(男119人)
- 11/10 仙台領から人返しあり(男女81人)

【延宝3年・1675】 記 載 事 項

- 1/6 花巻城代黒沢尻伝兵衛、盛岡城へ年始挨拶
- 1/11 鳥討、花巻は地討の雫石九十郎と大里十三郎、和賀郡は鈴木源太夫を派遣
- 1/13 跡目相続、高橋光円→子・九郎左衛門、欠端喜蔵→孫・喜兵衛
- 1/28 黒沢尻川通御番所に山田源右衛門と岩根又兵衛を任命
- 2/11 大迫の長左衛門、馬2疋他領へ出馬を許可される
- 2/28 花巻の信楽寺後住に法妙院任命
- 3/12 狼駆除に鉄砲所持許可一稗貫郡立花・黒岩・湯沢・平沢・宮田・石持・浮田・小原・駒籠・中内・倉沢・田瀬12ヶ処へ
- 4/27 跡目相続、高橋久作→子・半平
- 4/27 花巻本蔵御勘定(寛文5年7月-同7年12月は御蔵奉行戸来甚左衛門・小原四郎右衛門・四戸勘十郎)岩清水七兵衛・四戸勘十郎、御勘定目録2通上る
- 閏4/28 水沢銅山、銅16,750貫の1割運上、残りは他領へ
- 5/28 大殿様(重信公)5月27日晚花巻宿泊、翌日盛岡へ到着
- 6/2・江戸上屋敷台所交代、柏葉安右衛門→花巻御給人小野寺惣右衛門
- ・猪去弥平次へ、若殿様台所役人として江戸上りの指令
- 6/5・八幡通代官交代、駒木次郎三郎→鬼柳清右衛門(相手・小笠原清三郎)
- ・伊藤庄右衛門、江戸上り(6月22日上下3人で上り、肥前様台所役就任)
- 6/7 花巻一日市かき(鍵)町惣兵衛宅へ夜盗
- 7/16 伊藤庄太夫、江戸奉公不宜により扶持召上げられ、親戚預け
- 8/1 煤孫村伊兵衛・川口町喜兵衛より水沢銅山出銅13,408貫600の1割差上げ、残り他領へ

【延宝3年・1675】 記 載 事 項

- 8/9 花巻信楽寺後住に惣持院付の見良を出家
- 8/14 花巻より大里重三郎討上の黒鶴二番、江戸へ
- 8/18 花巻で真鴨1羽、雫石九十郎討上げ、御賄方より申上げ
- 8/22 御袋様、台へ御湯治
- 9/6 殿様・奥様・鶴様、巳刻出発、船で花巻へ下る(七ツ過花巻着、9/13花巻より戻る)
- 注一殿様と鶴千代様、翌7日日鍋倉野で鷹狩り、13日盛岡へ戻る。
- 9/21 大迫上町で前日晚火事、48軒焼失(上町39軒、中町9軒、火元の助四郎一家行方不明)
- 10/21 水沢銅山出銅12,326貫500の1割運上
- 12/10 花巻より石巻経由で江戸へ移送する米、大豆、小豆、味噌の勘定目録、上る(西川小左衛門・金田一八郎左衛門)
- 12/22・花巻御給人中野新之丞・上田惣兵衛・左越吉左衛門、跡式認可(花巻御給人金田一伝左衛門)

門・大里十三郎跡目は保留) ・江刺家盛之丞跡式 2 人扶持召上げ、松尾又左衛門 1 月中に京都へ上る支度を指令される

※追加 「花巻市史 年表編」では

9/21 花巻と好地村の一里小屋の間に一里小屋建設

【延宝 4 年・1676】記 載 事 項

- 1/2 佐々木仁左衛門子の仁右衛門、御中ノ丸で初目見え
- 1/11 鳥討、花巻二枚橋より南は中野新左衛門・雫石九十郎、花巻の和賀通は鈴木源太夫
- 1/13 花巻御米俵仕奉行、高田七郎助・村角三郎右衛門・石井与五郎を任命
- 1/16 御預人京極丹後死去に伴う幕府の検死接待に、花巻・鬼柳・郡山の各御仮屋へ藩士を派遣
注-1 月 15 日公儀検使迎えのため、鬼柳～盛岡間に茶屋を仮設し、餅酒草履差出す。
- 2/2 ・江戸御下屋敷御台所交代、神覚助と金田一宇平次→松岡武兵衛と花巻御給人佐越吉左衛門
- 2/2 ・黒沢尻舟改に松岡市兵衛と伊藤団右衛門を任命
- 2/28 ・花巻御与力欠上作十郎、欠上庄二郎、大沢伝十郎、初目見え
・毎年の田名部桧山御役人に乳井六右衛門らを任命
・大迫代官交代、松岡武兵衛→村木治部右衛門(相役柄内与兵衛)
- 3/8 代官所前年物成未進の吟味、八幡通に安ヶ平次郎兵衛、寺林通に田中館六兵衛、笹間通に高橋甚之丞を派遣
- 3/11 佐々木仁左衛門加増、御蔵米 15 駄
- 3/20 ・跡目認可、北湯口権左衛門→子・与右衛門、金田一伝左衛門 25 駄→子・二郎五郎 15 駄、大里十三郎 15 駄→子・庄二郎 10 駄(いずれも花巻城代へ申渡し)
- 3/20 ・跡目認可、欠端八兵衛→弟で養子の嘉太夫(花巻城代へ申渡し)
- 3/23 石鳥谷町馬継の不許可(訴えは黒沢伝兵衛に返す)
- 3/27 ・鳥討、花巻は雫石九十郎・中野新左衛門・鈴木源太夫 ・松林寺別当、奥様御平産御祈禱守札差上げ
- 3/28 ・老中ほか役人御新丸へ移り、翌日新中本の三丸御番帳相出る。
・大殿と鶴千代、盛岡から江戸に向け出立(4/11 江戸到着)
- 3/29 黒沢尻川通番交代、松岡市兵衛→織笠勘助(相手・伊藤団右衛門)
- 4/4 黒沢尻御米荷組奉行工藤長三郎宅に盗人、代官石井与五郎と御蔵奉行久慈十左衛門の検分の結果、御城代黒沢伝兵衛へ報告(犯人は獄門の処罰)
- 4/10 御袋様、台へ湯治 注-所給人 5 名、同心 13 名、伝馬 21 匹、人足 80 人
- 5/9 白根鉾山産銅の通行手形(家老連名)、黒沢尻番所へ出る
- 5/16 ・肥前様御末方御賄交代、伊藤庄右衛門→乳井六右衛門(5 月 20 日過ぎ出立の指令)
・江戸御賄奉行交代、駒木次郎三郎→乙部寿太夫(城代へ書状)
・同御破損奉行に一方井庄太郎任命の旨、城代あて書状
- 5/21 ・和賀沢内産の焰硝 3 貫 800、御蔵入り(目形横目に三上太兵衛・中野新左衛門)
・水沢鉾山産銅 9621 貫余の通行手形、北上川通御番所へ出る
- 7/4 白根鉾山産銅の通行手形、黒沢尻御番所へ出る
- 7/7 鳥討、花巻は雫石九十郎・大里庄二郎、和賀は三田又四郎
- 7/8 若殿様、江戸より花巻へ未半刻(午後 3 時頃)御着座、城内で御給人初目見え
- 7/19 大迫・郡山・花巻中の揶駒改に帷子兵蔵と戸来又六を任命
- 7/28 松平伯耆守奥様付交代、夏井門兵衛→花巻・伊藤二郎右衛門
- 8/7 富田屋惣左衛門が伐採を請負いした鹿角の材木の通行手形、黒沢尻番所へ出る

【延宝 4 年・1676】記 載 事 項

- 8/8 江戸で男子出産祝賀、花巻城代四戸金左衛門・花巻御給人富沢六左衛門・同奥寺源右衛門、花巻御代官荒木田甚左衛門ら肴 1 折献上(7/27 江戸で男子出生に因む)
- 8/17 花巻御給人小山田宇右衛門病気で二男吉十郎の名代を許可
- 8/29 水沢鉾山産銅 6354 貫余の通行手形、鬼柳番所へ出る
- 9/6 殿様御不例、花巻八幡寺・成島寺祈祷の守札届く
- 9/17 大迫代官交代、村木治部左衛門→長嶺茂左衛門
- 9/27 雫石九十郎養子訴訟、九十郎実子民之助の名跡継承、養子甚兵衛の扶持方支給
- 10/12 花巻の黒沢伝兵衛、生美濃鯉 1 本献上

- 10/22 郡山下米買に二ヶ村甚右衛門・金田一久左衛門、花巻下米買に志賀小左衛門・駒木次郎三郎・本館甚右衛門を任命
- 10/27 黒沢尻舟肝入の交代、与左衛門→民部(合力米 7 駄支給)
- 11/ 3 盛岡城から花巻城の仮屋へ道具類貸与(御馬買役人宿泊の接待用として)
- 11/10 篠塚半兵衛の花巻芝居興業認可(御馬買の花巻出立以後の予定)
- 11/12 江戸上りの米 5,000 俵、花巻新蔵と本蔵より出荷(米俵仕奉行の江釣子七郎兵衛と藤井甚兵衛に指令)
- 12/19 藤堂和泉守馬買雇用の馬引き 3 人、12 月 17 日吹雪で遭難死
- 12/25 宮野重次郎倅運平の目見え名代に一条弥右衛門とすることを岩清水長助と獅子内兵部訴え
- 12/26・大迫代官交代、栃内与兵衛→佐々木勘右衛門 ・花巻東根通代官交代、本堂儀右衛門→駒木二郎三郎 ・鬼柳代官交代、遊座善兵衛→宮田源六
- 12/28 黒沢尻川通改人の伊藤団右衛門と織笠勘助、川下りの米・材木銅の通行証文を盛岡へ持参
- ※追加 「花巻市史 年表編」では
- 1 / 9 公儀御預かり人京極丹後死去、同 15 日公儀検死迎えのため鬼柳と盛岡の間の茶屋に餅、酒、草履差し出す 4 / 1 馬場を畠新田とする。
- 7/18 北上川新川普請人足、100 石 2 人ずつ、八代官所よりのべ 903 人、鬼柳通は 49 人引き
- 8/15 観音祭礼始まる
- 8/22 右京様、松林寺参詣
- 10/26 公儀馬買い花巻に一泊
- 月日不明 中御門前堀の板橋、土橋となる。土砂は早坂下川原から採取、人足 50 人。

【延宝 5 年・1677】記 載 事 項

- 1 / 2 大書院で若殿に 90 石以下の藩士子供目見え、小山田宇右衛門子の吉十郎、雫石九十郎子の辰之助
- 1 / 8 水沢鉦山産銅と白根鉦山産銅への御役金加増中止し、金床 1 丁 1 両、他領払役金 1/10、買銅金 1 両に付 17 貫目のまま
- 1 / 11 鳥討、花巻二枚橋より南東に中野新左衛門、和賀通に志田又四郎、花巻は滴石九十郎
- 1 / 12 俵仕奉行、黒沢尻御蔵は泉山清太郎、花巻本御蔵は高杉市左衛門、同新御蔵に杉沢正右衛門を任命
- 1 / 17 昨冬の花巻追鳥の折、口論のあった四戸金左衛門同心と桜庭四郎左衛門百姓へ処罰(同心は扶持没収、百姓は成敗)
- 1 / 26・寺林通代官交代、吉田次郎左衛門→富沢六左衛門(相手・立花清左衛門)
・黒沢尻船改に小菅新助任命(同役坂牛六左衛門) ・江戸下屋敷末台所交代、佐越吉左衛門→高橋八郎右衛門
- 1 / 29 花巻出身の藤沢伊兵衛・戸田喜兵衛へ 2 人扶持ずつ支給
- 3 / 2 若殿様(行信公)参勤のため発足、花巻宿泊
- 4 / 12 和賀通鉄砲討の志田又四郎より鉄砲判と鳥数 33 羽の報告
- 5 / 4 水沢鉦山産銅 3,900 貫余の通行手形
- 6 / 23 黒岩村・倉沢村・丹瀬村の境目番所役人へ扶持支給(注一鬼柳及び立花の境番所へは 50 石以上、野沢、黒岩、倉沢及び田瀬の 4 カ所へは小切り米取り 2 人扶持支給。
- 6 / 28 万丁目通代官交代、舟越孫助→江釣子七郎兵衛(相役佐藤長助)
- 7 / 7 鳥討、花巻中は藤井甚兵衛・雫石九十郎、和賀通は志田又四郎
- 7 / 11 花巻へ御鷹 15 居を遣わす
- 7 / 12 石巻の穀船運賃 130 両、花巻へ送り届け
- 8 / 2 花巻と郡山の楳駒改に志賀小左衛門と高橋九右衛門を派遣

【延宝 5 年・1677】記 載 事 項

- 8 / 6 大殿様、鬼柳寅ノ下刻(午前 5 時頃)出発→花巻辰ノ刻(午前 8 時頃)着城
- 8 / 15 藩主に御居間で目見え、小山田宇右衛門子の吉十郎、金田一久左衛門子の右平次、雫石九十郎子の弥九郎の 3 人は継目御礼、太田平右衛門子の平左衛門(もと内蔵之介)、欠端喜蔵子の七右衛門、宮野重次郎子の運平(名代・一条弥内)、亀ヶ森助右衛門子の六之尉の 4 人は初目見え

- 8/17 水沢鉦山産銅9,800貫余の通行手形、城代の報により黒沢尻番所へ出る
- 9/1 跡目相続、佐藤小助→子十之尉(18石)、伊藤庄左衛門→子左内(4駄2人扶持)・成島寺(23石) ※9月5日成島寺継目の礼に殿様に目見え
- 11/28 藩主に御居間で継目の目見え、岩清水九右衛門(継目安堵金1両)
- 12/18 花巻両蔵と黒沢尻蔵の米荷組奉行、船越助五郎と達曾部七兵衛、堀内新平就任
- 12/19 花巻御米買の根森弥兵衛・材津千右衛門、帰任
- 閏12/24 花巻城交代内示、黒沢伝兵衛(江戸供上り)→野々村宇右衛門(相手・四戸金左衛門、南御仮屋住い)
- 閏12/24・鬼柳代官交代、宮田源六→久慈弥左衛門 ・安俵代官交代、下田三太夫→杉沢庄右衛門
- ※ 追加 「花巻市史 年表編」では
- 4/14 岩崎古城で騒動。仙台藩鈴木九郎兵衛が祖父将監の石塔を立てるのを断念し、立退き相去町に石塔を立てた。
- 6/11 雷と大雨、明かず門外から堀となる。
- 7/2 大雨と雷、洪水と地震。
- 11/3 馬場口御門脇堀修繕、人足200人

【延宝6年・1678】記 載 事 項

- 1/2・御中丸で目見え、柏葉安右衛門子の長九郎、戸田喜左衛門子の喜三郎、折居嘉兵衛子の吉十郎 ・鳥討に二枚橋～瀬川は中野新左衛門、瀬川～太田二子是中野重内、太田二子～御境目は雫石九十郎を任命
- 1/6 黒沢尻船改役に波々伯部小右衛門と遠山次郎左衛門を任命
- 1/7 花巻城交代、黒沢伝兵衛(江戸供上り)→野々村宇右衛門(花巻御同心は野々村が預かる)
- 1/15・花巻町奉行沢田長兵衛、年始の御礼に鳥目30匹差上げ
・花巻御与力櫛引源右衛門、三田久三郎、那須川吉左衛門、年始目見えで鳥目20匹差上げ
- 1/23 田名部役人交代、欠端七右衛門(花巻御用)→太田伊助
- 1/29・花巻城代四戸金左衛門、盛岡に出張、肴1折と安俵村産青緒留石を持参(3月3日野々村宇右衛門、蛤1鉢と芹1折差上げ) ・花巻城本蔵荷組入用に10両支給
- 2/5 酒田の加賀屋与助、先祖が信直・利直の代に京都往復の際に宿を提供した由緒から、田名部浦への商船を廻しその船役を免除
- 2/11・大迫蔵奉行に豊川伝丞を任命 ・黒沢尻代官交代、久慈采女→志賀小左衛門(相役松尾又左衛門)
- 2/12・城代の石鳥谷町馬継ぎ申請を許可(申請に家老の裏書) ・黒沢尻町67軒に御町役を課税、また花巻と鬼柳の間は伝馬5匹限り、人足10人限りで黒沢尻中継ぎとする 注一8月29日石鳥谷の新町割り
- 2/19 石鳥谷町市札(十日市の規則) ※石鳥谷町馬継指定関連
- 2/20 石鳥谷町酒屋証文(2軒) 注-酒屋2軒に無役で馬継ぎを指示。
- 2/26 富沢六左衛門、糠塚儀左衛門、堀内甚五兵衛の継目を許可(3月14日継目の御礼金差上げ)
- 2/29 花巻本蔵と新蔵の米・大豆・小豆(寛文8年1月-延宝1月10月末)御勘定目録2通上る
- 3/20 黒沢尻川通物留交代、遠山次郎左衛門→一方井清兵衛(相役波々伯部小右衛門)
- 3/22 花巻の佐越吉右衛門、9年前の江戸破損奉行在職中の借財で拘留される(3月26日の処分、佐越吉右衛門は八戸弥六郎、二男の次郎助は漆戸勘左衛門へ預けとなる。次郎助は翌年6月没、所右衛門は2年後の延宝8年2月に家禄没収の上放免)
- 3/25 大迫村長左衛門から栗粕毛4歳1頭献上
- 4/10 御袋様、台へ湯治
- 4/11 水沢産銅の通行証文を交付
- 4/13 成島寺と高松寺、伊勢熊野へ代参
- 6/9 花巻御給人佐藤長右衛門、万丁目村の新田4石許可される
- 6/28 鳥討、和賀通は雫石九十郎、花巻城廻りは川井左助、城北中野重内を任命
- 7/19 花巻で7月17日に大洪水、城廻り破損と田畑冠水(城代報告)
- 7/22 大迫村では7月17日の大洪水で田畑が冠水し、下町橋と家2軒流失(代官報告)
- 8/16 花巻で地震による被害(城本丸壁大破、御台所脇の塀と石垣崩れ、蔵は大破、三町で14軒

- 倒壊) 注- 8月17日御台所脇の石垣13間崩れ、城壁大半落ち、女1人馬4頭死ぬ
 8/25 大迫・大槌・宮古の御蔵見分に伴加兵衛・坂本条右衛門任命
 9/25 江戸上りの松前兵庫様から花巻城代へ下賜品
 11/2 水沢産銅の通行証文を交付
 11/12・公儀馬買、花巻1泊 ・江戸の相撲一行10人、台で湯治(城代報告)
 11/21 江戸下りの行信様、花巻1泊(11月10日江戸発、22日盛岡着)
 11/28 継目許可、猪去弥平次(60石)、根井沢庄三郎(8駄2人扶持)
 (但し岩間太郎兵衛子の岩松15歳は目見えしなかったことを理由に跡目不可)
 12/5 根井沢庄三郎弟の庄次郎、茶道に召出し
 12/8 花巻町奉行交代、沢田長兵衛→鴨沢覚兵衛(もと宮古代官)
 12/15 北川清太郎の召出し(切米25駄は花巻本蔵から払出し)
 12/28 上崎勘兵衛から無銘の脇差と狩野右京筆豊干禅師図が献上され納戸に納める
 ※追加 「花巻市史 年表編」では
 5/26 豊沢川穴堰普請、松岡市兵衛と金堀7人。
 7/17 大雨で馬場口御門脇の堀崩れる。
 9/18 おきん様台へ湯治。

【延宝7年・1679】記 載 事 項

- 1/6・花巻城代野々村宇右衛門、年始目見え ・花巻御給人16人と継目の伊藤正左衛門、目見え
 1/7・鳥討、和賀通は大里正次郎、花巻御廻は中野重内、花巻は中野新左衛門
 1/15 御持筒御同心赤塚藤左衛門と櫛引新三郎、中野通御鳥見役に任命
 1/17 花巻照井沼で白鳥1羽、大里正次郎討上
 2/7 江戸下屋敷肴奉行に羽黒堂半之助を任命
 2/13・万丁目通代官交代、鬼柳五右衛門→二ヶ村甚右衛門
 ・八幡通代官交代、江釣子七郎兵衛→須々孫次助
 3/4 伊藤伝三郎、台で湯治、許可される
 3/7 若殿様(行信公)、巳ノ下刻盛岡→花巻宿泊(3月17日江戸着)
 3/17 黒沢尻船改役交代、田中武兵衛→神尾権太夫
 3/28 大迫中町長助、質屋営業許可される(盛岡町奉行名)
 4/3 大迫下町の左兵衛、質屋の開業を許可される
 4/8 江戸下りの松前兵庫様、4月7日花巻1泊
 5/10 嶽妙泉寺の大日堂建立(普請奉行は高橋四郎右衛門、5月24日柱立、翌8年1月29日遷宮)
 5/20 水沢産銅の通行証文(山師・煤孫村伊兵衛)
 6/19・安俵通代官交代、杉沢庄右衛門(江戸役人兼任)→大関清左衛門
 6/19・万丁目通代官交代、佐藤長助(江戸役人兼任)→高野文左衛門
 6/22 寺林通代官交代、富沢六左衛門(病氣辞任)→長沼次五右衛門(相役立花清左衛門)
 6/27・江戸の奥様御賄交代、根井沢庄三郎→杉沢庄右衛門、 ・江戸の亀之助御賄交代、立花宇
 右衛門→佐藤長助
 6/30 鳥討、和賀通は大里庄次郎、花巻城廻は鴨沢善助、二枚橋通は中野重内
 7/12 江戸奥様御末番に花巻の一条弥太郎ら3人(7月14日付で御上屋敷御台所の佐藤甚右衛門に交代)
 7/17 馬改、郡山・花巻に近内長左衛門と川口嘉兵衛、大迫・遠野に志賀小左衛門と安宅一郎右
 衛門を派遣(前年の改帳と代官あての書状持参)
 7/27 五大堂村で他殺死体発見、代官の命で猪去弥平次検分(城代報告)
 8/6 花巻一日市町舟大工三右衛門家人、花巻村大谷地で死体発見
 8/9 花巻川口町治右衛門申請、田名部の桧による帆柱運上を許可
 9/10 花巻で初白鳥1羽、鴨沢善助仕留め、塩詰め江戸上り
 9/28・煤孫滝倉外破山産銅、和賀郡菱内河片野沢産銅及び水沢産銅の3件、通行証文
 10/2 花巻・黒沢尻米俵仕奉行に松岡孫右衛門・川口嘉兵衛・城左次右衛門へ申渡し
 10/5 花巻買米奉行に笠間弥右衛門を任命
 10/10 田名部役人の一方井庄太郎、休暇で花巻帰省
 10/24 殿様(重信公)花巻着城、1泊(10月13日江戸発、25日盛岡着)
 10/26 花巻と黒沢尻の各蔵米を江戸へ移送(御横目鈴木源太夫・高田七郎助を派遣)

【延宝7年・1679】記 載 事 項

- 11/16 花巻城代、披塩引 30 枚と鮎子籠塩引 50 枚差上げ
11/17 花巻御給人佐藤十三郎跡式不可、扶持召上げ(子清之丞御目見え)
11/19・花巻一日市町の作兵衛、石巻御用に任命(手当て年 2 人扶持)
・花巻一日市町藤兵衛、舟肝入に任命(手当て年合力米 5 駄)
11/24 酒屋の新規営業許可(黒沢尻町・鬼柳町・花巻川口町の 3 店、礼金各 5 両)
12/10 花巻下米買交代、猿河弥十郎→材津千右衛門・石沢伊左衛門
12/19 文書規定の見直しにより、花巻の町人他領への通行手形は花巻御城代名で交付(但し月切に控帳、年寄〔家老〕共へ提出)
12/23 城代の申請、松尾又兵衛と昆小右衛門の花巻城御用を許可(各 2 人扶持支給、翌年 1 月 6 日見え)
注-松尾又兵衛はのち吉左衛門と名を改め、天和 3 年(1683)7 月兄の四肢で義姉一家と共に欠落
※追加 「花巻市史 年表編」では
7/25 左京様、台で湯治(8 月 12 日まで)
10/26 盛岡城石垣新規築き立て、公儀に届け出

【延宝8年・1680】記 載 事 項

- 1/2・改名、佐藤清右衛門→同甚之尉 ・富沢六左衛門次男の四郎兵衛、父の番代予定し目見え
1/2・御用の間で花巻御与力の目見え、沢田長作、根子儀左衛門、村井儀右衛門、欠上作十郎、須々孫治兵衛、小田代久左衛門、小山田五郎助、小田代久兵衛、岩間七兵衛、岩間九右衛門、大沢伝十郎、鈴木久作(目見え礼金として鳥目各 20 匹差上げ)
1/8 内堀織部、殿様の訪問を受け、雪村筆山水 1 幅と明 3 歳青毛 1 頭献上
1/11 鳥討、花巻(寺林・鬼柳)は中野新左衛門と同重内、和賀通東根は大里庄次郎
1/13・花巻と石巻間の川舟運賃払役人に根井沢庄三郎・鈴木弥左衛門を任命
・花巻本御蔵米荷組奉行に伊藤七平と花巻の川村喜内、同新蔵米荷組奉行に江柄又六と花巻の一方井正太郎、黒沢尻御蔵米荷組奉行に松岡孫右衛門と花巻の北川清太郎を任命
・盛岡の永福寺全焼
1/17 黒沢尻舟改に、松岡内蔵之尉、楓四郎右衛門、三浦平右衛門を任命
1/21 花巻御給人鈴木小右衛門、江戸御金奉行に任命(相役・松田利兵衛)
2/24・八幡通代官交代、小笠原清兵衛→花輪八兵衛(相役・須々孫治助)
・寺林通代官交代、立花清左衛門→笠間弥右衛門(相役・長沼治五右衛門)
・笹間通代官交代、田鍍庄右衛門と寄木嘉右衛門→下田三太夫と四戸治左衛門(但、庄右衛門・嘉右衛門、代官所に留まる) ・更木代官交代、荒木田甚左衛門→舟越伊助(相役駒木次郎三郎)
2/25 花巻郡交代、四戸金左衛門→切田小兵衛(組同心も同行、3 月 8 日引き継ぎ、北御仮屋住まい)
3/2 花巻八日町八兵衛、黒沢尻御町で質屋の営業許可
3/5 津志田まで花巻道筋の松枝下ろし、佐藤甚之尉と太田源太夫に指令
3/7 花巻御役人(花巻郡代)への指令を切田小兵衛へ申渡す ① 花巻城御家(本丸御殿)を毎月数回見廻り、役人宅で執務。② 城番に多人数は不用、火事等では郡代の指示による。
③ 城廻りの南柵は破損次第修繕のこと。④ 城柵で修繕不可能の際は、柵を詰めるべきこと ⑤ 御門番は足軽を当てること ⑥ 屋敷や年貢地の引継ぎは早急に実施のこと
⑦ 不用の春木等は払下げのこと ⑧ 藩主父子の御用以外、御台所は利用不可
3/9 郡山代官交代(町奉行兼任)、浅石清左衛門→堀内新平(相役下田重右衛門)
3/13 黒沢尻船改交代、鶏冠井四郎右衛門→渡辺九右衛門
3/19・花巻の御給人鈴木小右衛門と欠上伝右衛門の親跡目許可
3/22 岩崎村百姓 6 人が仙台領相去村百姓から米の前渡金をもらいながら、米を譲らず。家財没収と牢屋入りの処分の処、追放の処罰
3/27 大更新田町火事、7 軒消失、火元久兵衛家(新田奉行柴内又七報告)
4/3 殿様、江戸に向け出発、内匠様とお重様同道(4 月 15 日江戸着)
4/11 御袋様、台へ御湯治(4 月 26 日盛岡に戻る)
5/6 花巻御鳥見玉山与十郎病気で辞任(後任は花巻で選任のこと)
5/14 將軍家綱死去に伴い、盛岡・花巻通の市見世、棚の商売、川狩 3 日間停止
5/27 花巻本蔵奉行交代、戸来久右衛門→平賀弥右衛門
6/1 飯富良通、台で湯治

- 6/6 御下屋敷御着奉行交代、福田七之丞→花巻御給人菊地久助
7/7 鳥討、花巻二枚橋通は中野重内、花巻城廻は大里庄二郎、和賀通は雫石弥九郎
7/9 御鷹目付の派遣、花巻に野田茂太夫。鷹の雲雀捕獲

【延宝8年・1680】記載事項

- 7/12 江戸奥様御末番交代で花巻の笹木仁左衛門子の仁右衛門江戸へ
7/18 二ヶ村甚右衛門百姓の鬼柳村清九郎と仙台領相去の足軽半三郎、7月9日の市日に黒沢尻町内で喧嘩
8/5・水沢産銅の通行証文 ・撤駒改、郡山と花巻に佐藤甚之尉と工藤長介、大迫と遠野に松田伊兵衛と目時平内を派遣 ・桜庭兵助名乗変更、由綱→光英（印判も変更）
8/17・鬼柳八幡祭礼（信楽寺相勤） ・黒沢尻物留番交代、松岡内蔵丞（病気）→坂本条右衛門
8/22 主税様御六尺の川口町三九郎7月23日欠落
9/4 花巻二郡中代官へ、御年貢米皆済まで役所2人ずつ詰め、他領米の通行不可を指令
9/24・若殿前日花巻1泊（江戸9月13日発、盛岡24日着）
・花巻町奉行交代、鴨沢角兵衛（盛岡移住を拝命）→小野寺惣右衛門（なお鴨沢角兵衛、9月27日御小姓奉行就任、小野寺惣右衛門10月15日御居間書院で目見え）
10/12・立花通代官交代、駒木次郎三郎→杉沢正右衛門（相沢・舟越伊介）
10/13 水沢産銅の通行証文
10/17 成嶋寺、毘沙門堂と阿弥陀堂と熊野堂葺替え用に拝借の御蔵米50駄内、残り13駄余は上納延期（住職良存が京都修学中による）
10/29 親跡目相続、高橋藤兵衛（60石）、北川新左衛門（300石）許可
11/1 高橋藤兵衛、黒沢尻蔵奉行に任命（親八左衛門名代の実績を評価）
11/12 御馬買衆、花巻に巳の刻（午前10時頃）到着し宿泊
11/14 百姓共鳥運上の申請を協議し、和賀稗貫二郡の追鳥人足として100石で5人ずつの提供を城代に指令
11/16 右京殿、松林寺ほかへ参詣 注-「花巻市史 年表編」では11月14日で伝馬3匹、人足10人とある
12/13 来春の若殿江戸参勤御供に、野々村宇内、小山田吉十郎、富沢六左衛門、新渡戸伝二郎を指名
12/17 江戸御供交代、富沢六左衛門（老齢と病気）→子の四郎兵衛
※追加 「花巻市史 年表編」では
3/26 向小路同心は盛岡へ引っ越し、後へ城代切田小兵衛組同心移る。
4/27 貞心院、台で湯治（5月16日まで）
9/20 盛岡新山に舟橋架設、公儀の許可を得る。

【延宝9年・1681】記載事項 -9月29日以降、天和元年-

- 1/10 万丁目通代官交代、二ヶ村甚右衛門（江戸御金奉行就任）→一条弥太郎（相手・高野文左衛門）
1/11・寺林通代官交代、笠間弥右衛門→福田助右衛門（相手・長沼治五右衛門）
・鳥討、和賀（太田二子辺）に鴨沢善助、花巻（二枚橋・二子）に中野重内
1/11・鬼柳代官交代、久慈弥次右衛門→浜田甚五兵衛（相役欠端七右衛門）
・黒沢尻代官交代、志賀小左衛門→久慈弥次右衛門（相役・松尾又左衛門）
・長岡代官交代、根井沢庄三郎（病気）→目時平内（相役・松内伊兵衛）
・郡山代官（町奉行兼任）交代、下田重右衛門→大須賀九郎右衛門（相役堀内新平）
1/15 御新丸御居間書院で病後の太田平右衛門、年始の目見え
1/16 黒沢尻通改に、美濃部作左衛門・岩根又兵衛・勝又藤左衛門を任命
1/20 俵仕奉行、花巻新蔵に重茂勘助、同本蔵に織笠弥兵衛、黒沢尻蔵等に中村七郎助を任命、
1/22・花巻舟帯奉行に、鈴木弥左衛門と黒沢新丞を任命 ・二子代官交代、四戸治右衛門→原菊右衛門
1/28 鑑（鍋）倉新田奉行に浅水甚之丞を任命（相役・煤孫治助）
2/1 江戸上屋敷御台所交代、佐藤左兵衛→柏葉安右衛門（3月14日根森弥兵衛に交代、柏葉は荒木田惣右衛門と交代し下屋敷御台所に就任）
2/20 一昨年12月欠落して花巻の兄九郎作家に戻った四戸平次郎の処分、老中協議の上若殿に披露し、お構い無しの決済下る

- 3/2 若殿、花巻1泊(3月12日江戸着)
- 5/10 花巻御給人糠塚次郎右衛門前年江戸から戻り療養中、5月4日病死
- 6/2 幕府巡見使通行と飢饉により、上げ酒と酒醸造停止
- 6/21 殿様、花巻1泊(江戸6月13日発、26日盛岡着)
- 7/7 御鷹待と御鳥討、花巻通(北は石鳥谷より南、豊沢川切)は中野重内、和賀通(豊沢川・御境目)は雫石弥九郎

【延宝9年・1681】記載事項 -9月29日以降、天和元年-

- 7/24 水沢産銅の通行証文
- 8/3 大迫町で火事、19軒焼失(火元は同下町助三郎、代官長嶺茂左衛門・佐々木勘右衛門報告)
- 8/24 榎駒改に、花巻と郡山へ池田奎太夫と四戸弥五右衛門、大迫と遠野へ下田善兵衛と生方治右衛門を派遣
- 9/2 幕府巡見使、花巻御仮屋で休憩、鬼柳宿泊
- 9/7 八戸八郎兵衛様、郡山で昼休み、花巻で1泊
- 9/16 御家中検見と百姓の事情聴取(大迫へ金田一与兵衛、八幡・寺林へ奥津茂右衛門、笹間・黒沢尻・鬼柳へ山口助三郎、安俵・更木へ工藤半之丞派遣)
- 10/4 高木通代官交代、舟越伊助→花巻御給人欠端奎衛門(相手・杉沢庄右衛門)
- 10/5 黒沢尻横俵の乞食道心、窃盗で入牢(のち豊沢落合で棒で打殺しの刑)
- 10/14 親跡目相続許可、奥寺八兵衛(50駄)、中島喜内(50石)、小川甚之介(2人扶持)
- 10/23 水沢産銅の通行証文
- 11/14 公儀馬買、前日花巻1泊
- 11/18 花巻御給人坂水又兵衛の畑返新田申請(高50石まで)を許可
- 11/19・福田助右衛門甥の次郎兵衛、寺林通代官所への出仕を許可 ・堀内新平、郡山代官を病気で辞任
- 12/13 跡式許可、花巻御給人糠塚儀左衛門→子の丑之助(15駄)
- 12/29 花巻舟帯奉行に、鈴木源太夫と小笠原清二郎を任命
- 12/29 江戸表奉公に、花巻より舟越与助と中村七郎、山屋三十郎抜擢
- ※追加 「花巻市史 年表編」では
- 3/16 黒沢尻河岸へ屋敷20軒建設
- 4/5 田瀬村藩境について、幕府の裁定下り、小塚を築く。
- 12/03 舩金の制度始まる

【天和2年・1682】記載事項

- 1/11・鳥討、和賀通に雫石弥九郎、花巻通に中野重内
 - ・黒沢尻川通番に織笠勘助(前年12月13日斉宮跡式)、伊藤団右衛門、生方治右衛門を任命
- 1/15・八幡通代官交代、花輪八兵衛と煤孫治介→日戸庄兵衛と荒木田惣右衛門
 - ・大迫蔵奉行に藤田太郎兵衛と佐藤甚右衛門を任命
- 1/17 花巻から赴任の北湯口与右衛門、手代森吉左衛門屋敷を拝領
- 1/26 江戸移送米の舟帯舟の規則、花巻役人へ指令
- 1/29 穀物改 安俵通一本宿弥右衛門と山口助三郎、高木通一戸来治助と小山田庄六、八幡通一沢田勘右衛門と寄木新右衛門、大迫通一大光寺彦十郎
- 2/13・花巻御給人小野寺山三郎へ加増 ・酒屋数、花巻村20軒、石鳥谷村2軒、大迫村5軒、土沢村3軒、鬼柳村3軒、黒沢尻村2軒
- 2/16 桜庭兵助死去に伴い、右近方より印判と居判差上げ
- 2/18・江戸下屋敷台所交代、柏葉安右衛門→松尾又左衛門(元黒沢尻通代官)
 - ・奥様御賄方交代、富沢四郎兵衛→北川清太郎
- 2/20 万丁目通代官交代、高野文左衛門→鈴木源太夫
- 2/27 黒沢尻通代官交代、松尾又左衛門(下屋敷台所就任)→鈴木嘉左衛門
- 3/10 内堀伊豆が南宗院(利直公)より下賜され盛岡城蔵に納入されている甲冑、内堀織部へ再び下賜
- 3/12 改姓許可、堀内新平→米倉兵左衛門
- 3/14・花巻本御蔵奉行交代、石沢久次郎→小原平十郎(相役・平賀弥右衛門)
 - ・当春の和賀稗貫二郡検地奉行に三上太兵衛を任命

- 3/16 花巻御給人乙部嘉太夫跡目、実子甚十郎許可(切米 25 駄)
 3/17・加増、中野新左衛門 25 駄→35 駄(勤務評価) ・加増、中野重内 2 人扶持→10 駄 2 人扶持
 (勤務評価)
 3/19 改人役の任命、寺林通代官は長沼治五右衛門と福田助右衛門、八幡通代官は荒木田惣右衛門と日戸庄兵衛、万丁目通代官は小野寺山三郎と鈴木源太夫、笹間通代官は下田三太夫と原菊右衛門、黒沢尻通代官は久慈弥次右衛門と鈴木嘉左衛門、鬼柳通代官は勝又藤左衛門と欠端七右衛門、立花通代官は杉沢庄右衛門と欠端左右衛門、安俵通代官は栃内小左衛門と大関清左衛門、花巻町奉行は昆喜右衛門と小野寺惣右衛門、大迫通代官は佐々木勘右衛門

【天和2年・1682】記 載 事 項

- 3/21・殿様郡山出発、花巻昼休み、鬼柳宿泊。・松前兵庫様江戸下りの廻し状に花巻検断 3 名(金右衛門、孫兵衛、石右衛門)
 4/20 鬼柳通代官交代、欠端七右衛門(7 月 9 日病死)→金田一八右衛門
 5/21 江戸の主税様御賄交代、泉山清太郎→猪去弥平次(のち本人病気で辞退)
 5/27 花巻御町奉行交代、昆喜右衛門→欠端左右衛門
 6/11・安俵通代官交代、栃内小左衛門→川口嘉兵衛(相手・大関清左衛門)
 ・更木通代官交代、欠端左右衛門→伊藤次郎右衛門(相手杉沢庄右衛門)
 6/22 若殿様 6 月 20 日に花巻御着、高橋藤兵衛と奥寺八兵衛、中島喜内、乙部甚十郎、糠塚猪之助の 5 人継目御礼、佐々木次郎助(治兵衛の子)と高橋孫助(半平の子)、中野太郎兵衛(七兵衛の子)、大関源八(清左衛門の子)、梅木左衛門(助左衛門の子)、石川清助(兵五郎の子)、玉山左兵衛(与十郎の子)の 4 人初目見え、照井七郎兵衛・工藤半右衛門・川村九郎右衛門の 3 人改名後の目見え 注-6 月 20 日若殿様下向の折、黒沢尻村で直訴、代官勝又藤左衛門と欠端七右衛門身帯没収
 6/23 若殿へ初目見え、欠端七右衛門子の長次郎
 6/25 手代森吉左衛門の処分、次男の次郎助は花巻城代預かり
 7/2 江戸下屋敷座敷番に昆喜右衛門らを任命
 7/7 鳥討、和賀通は雫石弥九郎、花巻廻は鴨沢善助、郡山は中野重内
 7/9 もと鬼柳通代官欠端七右衛門、8 日に病死
 7/10 公儀尋人役中、花巻町奉行小野寺惣右衛門と欠端左右衛門
 7/23 水沢産銅の通行証文
 8/8 御蔵入の年貢歩付(税率)、検見から概歩(税率一定)に変更となる
 8/18 花巻二郡中の小荷駄、花巻城代による改印・支払
 9/5 右京殿、花巻郡山へ物詣(9 月 7 日盛岡へ戻る) 注-鳩岡崎稻荷参詣、お供に玉山門太夫・切田覚内・鴨沢覚兵衛の 3 人
 9/9 跡目許可、二ヶ村甚右衛門→子の大助(100 石)
 9/20 南万丁目村鼬幣稻荷神社の勧進相撲開催申請、許可
 注-9 月 14 日万丁目鼬幣稻荷神社地割に城代立ち会い。10 月 19 日鼬幣新稻荷の遷宮
 9/27 鬼柳通代官交代、勝又藤左衛門→志賀小左衛門(相手・金田一八右衛門)
 10/10 立花通代官交代、杉沢庄右衛門→泉山清太郎(相手・伊藤次郎右衛門)
 10/12 花巻御給人金矢甚七に 2 人扶持の支給と盛岡への移住を許可
 10/22 南万丁目村鼬幣の熊野堂松原で八戸から伊勢詣での死体発見
 11/9 水沢産銅の通行証文
 12/11 欠端七右衛門知行所物成米、花巻御蔵へ納入
 ※ 追加 「花巻市史 年表編」では
 7/24 瑞興寺庭で給人子弟 40 人余り踊り、騒動あり
 12/18 修験の一明院と覚善院公事、江戸の大殿へ伺い
 12/23 一明院動向の浄覚坊と十二丁目村金剛坊、幣束を双方回して喧嘩、御役屋で尋問

【天和3年・1683】記 載 事 項-5 月 7 日付で藩石高 10 万石-

- 1/11・鳥討、和賀通に雫石弥九郎、花巻通に鴨沢善右衛門
 ・黒沢尻物留番に大矢三郎左衛門と米内半太夫、儀家忠右衛門
 1/12・舟帯奉行に小野寺源右衛門と相羽専右衛門を、花巻本御蔵俵仕奉行に雫石左五右衛門を、花巻新御蔵俵仕奉行に岩清水半右衛門を、黒沢尻御蔵俵仕奉行に奥津茂右衛門を任命

- 1 /15 ・大迫閉伊御蔵改に田中久太夫と大田原清右衛門任命(2/5 目録上る)
 - ・笹間通代官に原菊右衛門と岩間左内を、八幡通代官に荒木田惣右衛門と苔米地七右衛門を、大迫代官に大槻八郎左衛門と下田三太夫を任命
- 1 /30 江刺市左衛門領土沢でキリシタン訴え
- 2 /3 ・江戸下屋敷肴奉行交代、江柄又六→滴石九十郎(2月7日病気で辞退)・奥様賄交代、北川清太郎→目時平内(もと彦部代官)
- 2 /5 花巻御給人小原平十郎、江戸御金奉行として御供上り
- 2 /11 光林寺、仙台廻住の遊行上人へ見舞い
- 2 /21 上鬼柳の能藤孫右衛門欠落の報告
- 2 /27 若殿様盛岡巳の刻(午前10時頃)出発、花巻1泊(3月9日江戸着)
- 3 /6 花巻の檜山役人に、中村治右衛門と鬼柳五右衛門を任命
(3月10日病気の中村治右衛門の代わりに浅石文右衛門を任命)

【天和3年・1683】記 載 事 項—5月7日付で藩石高10万石—

- 3 /20 花巻道筋並松吹倒れ、北通200本、南通30本
- 3 /28 京都岡崎御番交代、安宅市郎右衛門→花巻の伊藤次郎右衛門
- 4 /14 ・花巻鍵町善兵衛へ質屋営業の許可 ・更木代官交代、伊藤二郎右衛門→欠上作右衛門
- 5 /14 鬼柳までの道見分に田中久太夫派遣
- 6 /3 ・黒沢尻通代官交代、鈴木嘉左衛門→金田一八右衛門(相役・久慈弥二右衛門)、鬼柳通代官交代、金田一八右衛門→羽黒堂庄(勝)右衛門(相役・志賀小左衛門)
- 6 /16 花巻蔵改に鬼柳三右衛門と井上又左衛門を任命
- 6 /21 ・和賀稗貫二郡山漆の実運上蠟燭5貫匁、八日町彦三郎へ証文。・花巻仙人峠越えの肴海草類他領へ運送、運上金は1/10
- 6 /26 光林寺、上人号を許可される
- 7 /7 鳥討、和賀通に滴石弥九郎、花巻に鴨沢善右衛門を任命
- 7 /10 殿様前沢出発、今晚花巻に宿泊(7月11日出発し盛岡着)
- 8 /14 松尾又左衛門の妻子、夫の指示で欠落発覚(松尾本人は前年12月芝の藩蔵緒方与兵衛と口論し、同僚に押し留められたものの、喧嘩の決着の機会を狙う。緒方は無調法で屋敷追放の処罰、拘留され11月22日戸来又左衛門に預け)注—7月26日松尾又左衛門本人は江戸で病休。館小路の家族8人立ち退き発覚。弟の吉左衛門は2人扶持で前日まで御物書勤め。
- 8 /17 大迫・遠野通の揃(せり)駒改人帳目録を上げる
- 8 /22 花巻八幡寺跡後住、成島寺良存就任
- 8 /26 内堀民部、台へ湯治
- 9 /14 盛岡城内で連歌会開催
- 10 /1 虎屋永閑、花巻と遠野の芝居興行を許可される
- 11 /6 宗門改稗貫郡21,820人、和賀郡25,770人、花巻町4,654人
- 12 /12 ・表御物書に昆平助を召出 ・花巻の米田八十郎、新田20石で召出し
- 12 /16 花巻一日市御仮屋守の孫左衛門、仮屋修繕費捻出に1500石川通の申請、1000石で認可(礼金3両)
- ※ 追加 「花巻市史 年表編」では
- 5 /7 重信の従四位授与と10万石軍役を祝い花巻から町同心2人江戸へ派遣、肴持参
- 7 /19 花巻御本蔵の一つ、15間御蔵を早坂下へ建て替え。早坂の坂も普請する。岩間長左衛門と佐々木弥内立ち退き。
- 10 /25 若殿奥様17日死去、28日法事。花巻御給人香典の名代小野寺惣左衛門。

【天和4年・1684】記 載 事 項—2月21日以降は貞享元年—

- 1 /6 大迫の鳥獣運上を認可(花巻鳥見の和田半左衛門吟味、ねじを回収し、鉄砲の使用禁止であった)
- 1 /11 ・鳥討、和賀通へ雫石弥九郎、花巻通へ鴨沢善右衛門、花巻二枚橋通へ中野重内
 - ・黒沢尻物留番交代、米内半太夫と大矢三郎左衛門、儀我忠右衛門→田中久太夫西海枝八郎右衛門・小菅新助
- 1 /17 水沢銅山で1月10日雪崩で山子16人死亡(川口町喜兵衛に始末を一任)
- 1 /19 ・花巻新御蔵荷組奉行に葛西半右衛門を任命 ・花巻本御蔵奉行に江柄又六を任命
 - ・黒沢尻御蔵荷組奉行に太田代兵右衛門を任命

- 1 / 21 ・大迫通代官交代、大槻八郎右衛門→鬼柳五左衛門 ・安俵通代官交代、川口嘉兵衛→津輕石軍藏 ・黒沢尻藏奉行交代、高橋藤兵衛→柏葉安右衛門
- 2 / 1 ・下屋敷肴奉行交代、小平庄右衛門→花巻の乙部甚十郎 ・下屋敷台所交代、神角助→花巻の中村治右衛門(同 13 日に舟越伊助の代わりに御金奉行に任命)
- 2 / 4 大迫と両閉伊御蔵改に黒沢喜兵衛と井上又左衛門を派遣
- 2 / 9 病気の野々村宇右衛門、花巻城代辞任を申請する(却下される)
- 2 / 14 伊藤所左衛門、目付役辞任(3 月 18 日宮古代官に就任)
- 2 / 15 花巻八幡寺後住、安堵金 2 歩納入し、御目見え
- 3 / 7 八幡通代官交代、荒木田宗右衛門→大田原清右衛門(相役・苫米地長左衛門)
- 3 / 15 花巻城代野々村宇右衛門と切田小兵衛へ御役料各 50 駄支給(勝手不如意の訴えに応じる)
- 3 / 20 殿様、盛岡出立、郡山 1 泊(4 月 2 日江戸着) 注-21 日花巻で昼休み、鬼柳宿泊
- 3 / 29 八幡と伝法寺通の新田検地に長谷川又左衛門を派遣
- 4 / 22 京都黒谷屋敷番交代、伊藤次郎右衛門→一方井庄太郎(5 月 3 日出立)
- 4 / 25 和賀郡尻平川の赤滝金山、銀採掘への変更、認可される
- 5 / 6 領内郡廻、奥郡へ小向四郎右衛門と松井作太夫派遣

【天和4年・1684】記 載 事 項—2 月 21 日以降は貞享元年—

- 5 / 7 ・下屋敷台所交代、八木橋茂右衛門→煤孫治助 ・奥様賄交代、小枝指清兵衛→苫米地長左衛門
- 5 / 26 八幡通代官交代、苫米地長左衛門→中野七兵衛(相役・大田原清右衛門)
- 6 / 28 下屋敷破損奉行交代、仙石文左衛門→花巻・長坂源二郎
- 7 / 5 若殿花巻 1 泊(6 月 25 日江戸出立、7 月 6 日盛岡着)
- 7 / 7 鳥討、花巻城廻は鴨沢善右衛門、和賀通は雫石弥九郎
- 7 / 20 花巻山伏市(一)明院と覚善院、霞出入りで幕府で裁決下る(7 月 4 日、羽黒山伏の覚善院は我が俣の者に付、盛岡藩領内から追放の処罰) 注-寛永 20 年から 42 年目で決着
- 7 / 24 花巻や大迫等の揃駒奉行に横浜左五左衛門と高橋九右衛門任命
- 7 / 28 岩間九右衛門、5 人扶持で召出
- 8 / 3 永福寺の作事奉行に青木甚内と雫石佐五右衛門を任命
- 9 / 16 和賀郡煤孫御山伐採の春木で指示
- 10 / 13 宗門改 稗貫郡 22,320 人、和賀郡 25,270 人、花巻御町 4,611 人
- 11 / 19 跡目相続、猪去左伝二(60 石)、蛇口円吉(50 石)
- ※ 追加 「花巻市史 年表編」では
12 / 7 寒中降雪なく、盛岡で祈祷

【貞享2年・1685】記 載 事 項

- 1 / 2 大書院で目見え、欠端杵右衛門と新渡戸平藏、中島喜内、四戸黒作、猪去左伝次
- 1 / 11 ・鳥討、花巻城廻に鴨沢善右衛門、和賀通に雫石弥九郎
 - ・下屋敷炭薪奉行に花巻御給人根子才三郎任命
- 1 / 21 ・寺林代官交代、福田助右衛門→仙石豊左衛門(相役・長沼治五衛門)
- ・花巻本蔵奉行交代、平賀弥右衛門と石沢久二郎→田頭多左衛門と川村九郎右衛門
 - 2 / 2 ・花巻舟帯奉行に中村与七郎任命
 - ・花巻新蔵荷組奉行に柴内六右衛門を任命
 - 2 / 2 ・花巻本蔵荷組奉行に高屋六左衛門を任命
 - ・黒沢尻藏荷組奉行に花輪金蔵を任命
 - 2 / 3 万丁目代官交代、鈴木源太夫→工藤長助(相役・小野寺山三郎)
 - 2 / 4 黒沢尻通代官交代、金田一八右衛門(病気)→伊藤次郎右衛門(相役久慈弥次衛門)
 - 3 / 2 若殿、花巻 1 泊(同 12 日江戸着)
 - 4 / 7 京都岡崎屋敷番交代、一方井庄太郎→田鍍庄兵衛
 - 4 / 13 花巻ほかの郡廻に、小向四郎右衛門と松井作太夫派遣
 - 4 / 15 大迫産の煙草口銭役を申付(盛岡の商人 2 名前年冬に願書)
 - 7 / 7 鳥討、花巻城廻に鴨沢善右衛門、和賀通に雫石弥九郎
 - 7 / 12 江戸御下屋敷破損奉行交代、長坂二郎兵衛→四戸治右衛門
 - 7 / 13 ・江戸御下屋敷御台所役交代、煤孫治助→花巻・太田平右衛門

- ・江戸御下屋敷御看奉行交代、四戸庄助→花巻・戸来五右衛門
 - 7/18 郡山・大迫・花巻の楸駒奉行に玉井清兵衛・石川門之丞
 - 8/12 殿様、郡山1泊(7月27日江戸発、8月13日盛岡着) 注-鬼柳宿泊、花巻城で昼休み
 - 8/26 漆搔奉行、大迫へ白戸与左衛門と長牛市右衛門を、和賀と稗貫の二郡へ田頭金兵衛と和井内惣五郎、田鍍又兵衛を派遣
 - 9/13 跡目相続、長坂次郎兵衛(100石)、石津(沢)久次郎(50石)
(長坂次郎兵衛10月19日下着、安堵金1両差上げ、花巻で休暇)
 - 9/24・松林寺跡目の六位を承認
 - ・花巻から江戸送りの米荷奉行派遣(花巻と黒沢尻へ)
 - 10/15 松尾又左衛門、召出(12月18日切米25駄) 注-天和3年8月17日関連
 - 11/2・当年宗門改 稗貫郡27,856人、和賀郡25,632人(花巻町人口不明)
 - ・公儀馬買、花巻で宿泊
 - 11/3 江刺市左衛門、台で湯治
 - 11/13 照井与五左衛門へ50石の小高帳渡す(延宝8年畑返新田の検地で25石加増)
 - 12/2 黒沢尻代官交代、久慈弥二右衛門→中井源右衛門
- 【貞享2年・1685】記載事項
- 12/19 土沢の足軽町徳右衛門家で喧嘩、花巻で入牢の関係者取調べ、
 - 12/22 鬼柳境古人の任命、城代へ申渡す
 - 12/28 跡目相続、花巻御給人金田一美之助(15駄)、欠端杵右衛門(50石)
- ※追加 「花巻市史 年表編」では
- 6/28 大田村で竜巻発生

【貞享3年・1684】 1年分欠落、以下の記述は「花巻市史 年表編」による。

- 3/1 岩手山噴火(9月20日岩手山へ御位下る)
- 閏3/26 右京様湯治(4月10日まで)
- 4/17 御袋様湯治(5月1日まで)
- 6/1 駒ヶ岳御堂普請
- 6/13 豊沢から沢内へ続く道中断し、開き立ての申請。
- 7/14 大洪水
- 秋 北上川普請成就、奉行伊藤武左衛門と高橋半六。
- 11/18 山口と太田両村の番所廃止、越中畑番所へ花巻御与力2人、1日から派遣、各2人扶持を支給。
- 11/26 遊行上人、光林寺着

【貞享4年・1687】記載事項

- 1/2 若殿に目見え、欠端杵右衛門・長坂二郎兵衛・奥寺半五郎・伊藤与左衛門・岩間九右衛門(盛岡城にて)
- 1/11・花巻鳥討に中野重内(北は石鳥谷迄、南は瀬川切)と鴨沢善右衛門(北は瀬川切、南は豊沢川)、和賀通鳥討に零石弥九郎(北は豊沢川切、南は御境目)
 - ・大迫代官交代、下田三太夫と鬼柳五右衛門→羽黒堂勝右衛門と江刺家九蔵
 - ・鬼柳代官交代、井上又左衛門と羽黒堂勝右衛門→上山半右衛門と昆喜右衛門
 - ・黒沢尻代官交代、伊藤二郎右衛門→戸来久右衛門(相役・中居源右衛門)
 - ・黒沢尻蔵奉行交代、小森林与五左衛門と柏羽安右衛門→四戸平兵衛と上田市兵衛
 - ・大迫蔵奉行交代、藤田太郎兵衛→帷子新平(相役・山根六左衛門)
 - ・花巻新蔵奉行交代、上田惣兵衛と伊藤庄左衛門→欠上作右衛門と小山田久左衛門
- 1/11・高木代官交代、欠上作右衛門と泉山清右衛門→佐藤勘太夫と大田平左衛門
- ・安俵代官交代、大関清左衛門と津軽石軍蔵→四戸治左衛門と平賀一郎右衛門
 - ・花巻俵仕奉行に四戸清助と田代左野右衛門、片岸用之助を任命
 - ・江戸下屋敷台所交代、石沢久二郎→城弥惣右衛門
- 1/27 石井伊賀死去
- 2/9 奥瀬治太夫病死、印判・居判とも老中へ上る
- 2/21 花巻鍛冶町小七、豊沢川で手負いの白鳥発見(褒美金300文)

2/24 花巻御給人岩間又蔵、昨年宋右衛門跡式の内 70 石相続、幼少で成長するまで同助市(七戸喜庵家臣で2人扶持)を名代にしたい旨親戚申請、若殿の決済で認可

3/2 若殿盛岡発、郡山で昼休み、花巻1泊

3/5 花巻一日市町御仮屋守の同四日町五郎八、質屋と小酒屋営業を申請し、質屋は認可。酒屋は前年不作で米価高騰で秋から認可、勝手方は五郎八責任で修繕、御居間通は藩請け負い

3/6 京岡崎御屋敷御番交代、望月文平→花巻御給人鬼柳五右衛門

3/9 花巻一日市町助次郎、手負黒鶴1羽を捕獲

3/28 花巻城交代、切田小兵衛(病氣辞任)→桜庭兵左衛門(但し殿様江戸下りまでの任期、他領との文通に 加判を認められる)

4/21 和賀郡谷内村で18日夜盗みと殺傷事件、波々伯部杵家臣と百姓逮捕(5月7日百姓の家欠所処分)

5/3 花巻城代桜庭兵左衛門と野々村宇右衛門、端午之御祝儀に塩鱈2と湯蕨10把を献上

5/20 谷内村夜盗探索に花巻から目明し1人と同心2人を派遣

【貞享4年・1687】記載事項

5/24 八戸より伊藤淡路様、花巻1泊(八戸5月21日発、同24日盛岡泊)

6/1・上屋敷台所交代、小野五右衛門→岩間助右衛門

・下屋敷台所交代、穴沢弥五兵衛→羽黒堂勝右衛門

6/6・黒沢尻川通交代、波々伯部杵→工藤権九郎(相役高野義兵衛・成田平左衛門)

・波々伯部杵、谷内村夜盗の件で不行届きとして遠慮の処分

6/7・大迫代官交代、羽黒堂勝右衛門→矢羽々治助(相役・江刺家九蔵)

・二子通代官交代、岩間助右衛門→小原平十郎

6/12 和賀川洪水

6/21 重信様、江戸発(盛岡7月3日着)

7/5 家督相続、花巻・太田半次郎(50石)、中野七之丞(2人扶持)

7/11 鳥討、花巻中は鴨沢善右衛門、和賀は角新右衛門

7/18 花巻鳥討交代、雫石弥九郎(親九十郎6月15日病死)→角新右衛門(岩手鳥討を田中安左衛門に廻し)

7/22 桜庭兵左衛門、病気で花巻城代を辞任

8/1 花巻と大迫等の搦駒役人に上山半右衛門を、紫野新田の搦駒人に浅石豊右衛門

8/10 花巻城代に三ヶ尻弥兵衛就任(相役は野々村宇右衛門)

8/23 大迫町又右衛門と惣太郎、九伝次の三人へ質屋の免状

8/29 宗門改 稗貫郡27,738人、和賀郡25,631人(花巻町人口は不明)

9/4 立花通代官交代、佐藤勘太夫→達曾部七兵衛(相役太田平右衛門)

9/6 細工職人辻村八郎左衛門、10人扶持で召出される

9/9 花巻の瑞興寺、盛岡城で藩主に目見え

10/26 谷内村殺傷事件の犯人ら獄門の処罰(城代へ指示)

12/1 大迫代官所下宮守村で火事、8軒焼失(代官報告)

12/6 花巻町奉行交代、欠端杵右衛門(依願免職)→長坂二郎兵衛

12/23・万丁目代官交代、立花右衛門→黒沢善兵衛

・黒沢尻代官交代、中居源右衛門→高野分(文)左衛門

【貞享5年・1688】9月30日以降は元禄元年 1年分欠落

【元禄2年・1689】記載事項

1/11 寺林代官交代、中野五右衛門→江刺家彦太郎(相役・長沼治五右衛門)

1/17・大迫代官に花輪七右衛門を任命(相役・栃内小左衛門)

・鬼柳代官に生方治右衛門を任命(相役・昆喜右衛門)

1/24 岩間九右衛門、熊野参詣

2/21 花巻与力の煤孫治兵衛、熊野参詣

2/30 若殿、盛岡発(3月10日江戸着)

3/29 右京殿、台へ湯治

- 6/10 殿様、江戸発(盛岡着6月22日)
- 7/5・江戸上屋敷台所交代、松岡三太夫→簡作右衛門
- 7/5 大助様賄交代、富沢四郎兵衛→斗内清五郎
- 7/7 鳥討、花巻城廻は鴨沢善右衛門、和賀通は川村左兵衛
- 7/12・八幡通代官交代、中野七兵衛→石沢久次郎
・黒沢尻代官交代、高野文左衛門→村角藤助
- 7/13・花巻新蔵奉行交代、簡作右衛門→佐藤甚右衛門
・万丁目代官交代、佐藤甚右衛門と下斗米平四郎→田頭太(多)左衛門と太田代平右衛門
- 7/19 八幡通代官に花巻御給人佐藤重之丞を任命
- 7/21 伊藤二郎右衛門、稗貫郡万丁目村の畑返新田申請、認可
- 8/9 花巻の撤駒改に田中久太夫を派遣
- 8/19 花巻二枚橋で沢田長左衛門、真鶴1葉を仕留め
- 8/23 檜山七左衛門(6月29日病死)遺物、西行筆色紙と刀を差上げ
- 8/27 家督、伊藤武左衛門→子小一郎(100石) 9月9日殿様に目見え
- 【元禄2年・1689】記載事項
- 8/27・家督、平沢万右衛門→子継右衛門(30石) 9月9日殿様に目見え
・高橋半平跡目は不可
- 9/5 花巻新蔵奉行、佐藤甚右衛門→鬼柳五右衛門(相役・小山田久左衛門)
- 9/16 若殿、買米御用に四戸清助と荒木田惣右衛門を花巻へ派遣(同月19日に鶴飼勘三郎も派遣)
- 9/19 江戸下屋敷台所交代、柏葉安右衛門(病氣)→昆喜右衛門
- 9/22 花巻御給人吉田八之丞、不届きにより2人扶持没収(養母で六郎左衛門未亡人の訴えによる)
- 10/9 花巻の江釣子又助の継目認可(4駄2人扶持)
- 10/25 当年宗門改 稗貫郡25,305人、和賀郡22,858人
- 11/28 花巻御給人石沢久二郎の婿養子に養父伊左衛門子の久之丞(18歳)
- 11/30 花巻御給人佐藤長右衛門、長男甚右衛門急死、次男友右衛門を名跡にする旨、認可(友右衛門は当時若殿御中小姓勤務)
- 12/11 紫野新田御用の奥寺次郎吉25駄、下杉孫八15駄、中館半十郎10駄、各支給(奥寺八左衛門遺言に基づく)
- 12/15 煤孫番所の夏油(げとう)上野への移転、花巻与力小川茂右衛門手寄せ1人で勤務
- 12/21 高木通高松村肝入源左衛門、御物成米横領の科で入牢(同月26日米11駄横領の罪で成敗の決定、同28日成敗、源左衛門持地10石は親但馬と弟へ戻す)
- 12/28 花巻城代の野々村宇右衛門と三ヶ尻弥兵衛、歳暮に塩引きと干薇を飛脚で献納
- 【元禄2年・1689】記載事項
- 12/29 表御物書志願の与力沢田長作、与力御免と物書に任命
- ※ 追加 『花巻市史 年表編』では
月日不明 岩崎の藩境に番所建設
- 【元禄3年・1690】記載事項
- 1/6 花巻御給人佐藤友右衛門(長右衛門子)、石沢久之丞(久次郎養子)、奥寺次郎吉、下杉孫八、中館半十郎、盛岡城で御目見え
- 1/11・鳥討、花巻城廻に川村左兵衛、和賀通に沢田長左衛門
・黒沢尻番に八木橋茂吉・神子田新蔵・宮下岡右衛門を任命
- 1/15・安俵代官交代、平賀一郎右衛門→柴内恒右衛門
・高木代官交代、大田平左衛門→河野太郎兵衛
・黒沢尻代官交代、戸来久右衛門→鈴木嘉兵衛
・八幡代官交代、小笠原清三郎→中川原小兵衛
・寺林代官交代、江刺家彦太夫→平館十右衛門
- 1/15 大迫蔵奉行交代、山根六右衛門→葛西半右衛門
- 1/26 大沢川原の佐藤友右衛門元屋敷、弟甚平貰い受け

- 2/5 花巻十二ヶ村山伏の持宝院、盛岡葺手町与右衛門家雪隠で自害(貞享元年の花巻一明院との霞場訴訟で敗訴し、安俵・中内・土沢・町井ほか旦那場を大峯派の一明院に渡した)
- 2/11 花巻与力羽黒堂勘兵衛・神山奎之助・新渡戸九郎次、岩崎与力(御境侍古人)鈴木伝右衛門へ各 50 石支給し給人並とする(城代の申請を認可)
- 2/26 お慶様と八戸弥六郎と縁組、弥六郎へ盛光脇指下げ渡す
- 3/3 花巻御給人沢田長兵衛、羽黒堂勘兵衛、神山奎之助、新渡戸九郎次、もと岩崎与力(御境侍古人)の鈴木伝右衛門、盛岡城で見え
- 3/5 ・花巻御給人坂水又兵衛の婿養子に善右衛門(鴨沢覚兵衛 3 男) 同 15 日見え
 ・紫野新田奉行に青木甚内を任命(相役・奥寺六之丞)
 ・奥寺六之丞(60 歳)の婿養子に同市之丞弟の宮之助、認可
- 3/19 殿様盛岡発、花巻 1 泊(4 月 1 日江戸着)
- 3/24 鷹数減少により、鷹匠の削減
- 5/7 京都御屋敷番交代、小野寺惣右衛門→栃内小左衛門
- 6/3 中島勘右衛門、花巻城代三ヶ尻弥兵衛家で切腹(岩崎村又兵衛家で高橋儀右衛門と喧嘩し、4 月 20 日儀右衛門が勘右衛門を斬り付け、欲 21 日儀右衛門自害、横目玉井清兵衛江戸に報告)
- 6/20 黒沢尻蔵奉行交代、四戸平兵衛と上田市兵衛→藤根伝兵衛と苫米地長左衛門
- 6/25 ・江戸上屋敷台所交代、簡作右衛門→大川彦十郎(7 月中旬出立)
- 【元禄 3 年・1690】記 載 事 項**
- 6/25 ・江戸下屋敷台所交代、昆喜右衛門→四戸黒作(7 月中旬出立)
- 6/28 若殿、江戸発(7 月 8 日盛岡着)
- 7/7 鳥討、花巻城廻に川村左兵衛、和賀通に坂水善右衛門
- 7/13 大迫代官交代、花輪七右衛門→伊藤七右衛門(相役・鈴木源太夫)
- 7/29 撤駒改に役人派遣
- 8/4 花巻御給人羽黒堂清六(勝右衛門子)、依願による元服を認可
- 8/7 花巻と郡山へ当作見分に長嶺茂左衛門を派遣
- 9/10 花巻一日市肝入の弥蔵、乱心して宿泊した仙台亙理村釣り師を傷つけ。外科の江刺家通悦が治療、花巻町医の辺見友説が薬調合
- 9/16 ・花巻本蔵奉行交代、金田一八郎左衛門→荒木田惣右衛門
 ・花巻新蔵奉行交代、小山田久左衛門→長山弥之助
- 9/18 ・花巻新蔵奉行交代、鬼柳五右衛門→小野寺惣右衛門
 ・花巻本蔵奉行交代、小野寺山三郎→工藤半右衛門
 ・花巻下米蔵奉行交代、工藤半右衛門→玉山左兵衛
- 9/28 ・花巻谷内村権現堂へ 5 石の寄進(別当和泉訴えに応じる)。
 ・御居間で若殿に花巻与力の子見え、名須川小兵衛(茂左衛門子)、名須川吉十郎(吉左衛門子)、三田四郎兵衛(七左衛門子)、高屋八助(八左衛門子)、鈴木軍之助(久作子)、岩間進吉(七兵衛子)、煤孫覚右衛門(治兵衛子)、小川右平次(茂右衛門子)、才藤久助(覚左衛門子)
- 10/8 ・花巻御給人伊藤庄左衛門養子に千松 11 歳(鬼柳五右衛門次男)、認可
 ・花巻御給人五日市与右衛門婿養子に伝右衛門 19 歳(佐々木伝助子)、花巻与力伊藤奎右衛門婿養子に万之丞 12 歳(名須川茂左衛門末子)、花巻与力櫛引源右衛門婿養子に作十郎 16 歳(四戸平兵衛末子)、花巻与力大沢伝十郎婿養子に与四郎 11 歳(岩間七兵衛末子)、何れも認可
- 10/12 江戸下屋敷で美松庄右衛門子供の庄五郎と大工喜平二喧嘩、美松庄右衛門の身代没収の処分
- 11/1 和賀郡谷内村権現堂へ 5 石の寄進
- 11/7 宗門改 稗貫郡 21700 人、和賀郡 20345 人、花巻御町 4842 人
- 11/13 花巻川口町町人、岩崎村宿の三十郎の窃盗事件に連座して追放
- 11/18 ・二子通代官交代、中居源右衛門→鈴木武左衛門
 ・花巻町医の辺見友説へ、亙理村釣り師治療の功で褒美金 1 両
- 11/19 安俵通代官交代、鈴木武左衛門→欠端奎右衛門
- 11/21 継目認可、花巻御給人藤根五左衛門→同伝兵衛(37 駄片馬)柏葉安右衛門→同長九郎(50 石)

- 11/24 盛岡出仕の昆小右衛門の2人扶持米、花巻蔵から盛岡蔵へ変更
 12/13・大迫代官伊藤七右衛門へ翌春の江戸供上りを命令
 ・万丁目通湯田村百姓妻を殺害、遺子二人を八幡村万蔵院養育
 12/19・小高帳交付、鳥谷孫市へ稗貫郡小山田村100石、戸来勘兵衛へ和賀郡二子村50石と稗貫郡太田村50石

【元禄4年・1691】記載事項

- 1/4 大迫町源右衛門、例年通り若殿へ煙草30把献納
 1/6 盛岡城大書院で花巻御給人佐藤友右衛門(長右衛門子)・重茂弥内(齊宮養子)・藤根伝兵衛・柏葉長九郎、目見え
 1/11・寺林通代官交代、長沼治五右衛門→中村治右衛門

【元禄4年・1691】記載事項

- 1/11・高木通代官交代、達曾部七兵衛→岩間助右衛門
 ・二子通代官交代、鈴木武左衛門→鬼柳五右衛門
 ・八幡通代官交代、佐藤十之丞→黒沢新之丞
 ・大迫通代官交代、伊藤七右衛門→山屋三右衛門
 ・黒沢尻物留番に成田平左衛門と沢里春兵衛、浪岡六左衛門任命
 ・鳥討、花巻城廻に川村左兵衛、和賀通に坂水善右衛門
 2/1 内堀民部、新堀村1000石知行地変更
 2/5 上野与三郎娘婿養子に、花巻与力の岩間七兵衛次男の市之丞
 2/20 花巻御給人長沼治右衛門、伊勢参宮
 2/21 昆喜右衛門、御横目役に就任(4月8日には勘定頭に就任)
 2/22 笹間村赤坂堤で白鳥1羽の死骸発見
 3/2 若殿、盛岡発(同12日江戸着)
 3/5 花巻与力岩間七兵衛の俸今吉、若殿に召仕え(老中次に詰め)
 4/18 京都岡崎屋敷番交代に乳井六右衛門を任命(平館十右衛門と交替)
 6/9 江戸下屋敷台所交代、四戸黒作→川井運助
 6/25 松林寺祭礼同月23日終了(城代三ヶ尻弥兵衛報告)
 6/27 殿様、江戸発(7月10日盛岡着)
 7/10 鳥討、花巻城廻に川村左兵衛、和賀通に坂水善右衛門
 7/24 定舟帯奉行に大田代兵右衛門任命
 7/28 万丁目通代官交代、太田代兵右衛門→笠間弥右衛門
 8/3 跡目相続、鈴木伝右衛門(50石)、石沢虎之助(50石から5人扶持に変更、二人は8月28日中ノ丸で若殿に目見え) 8/15 郡山・花巻・村崎野・大迫撤駒役人に工藤市九郎と舟越伊介
 8/1 山田太右衛門知行地変更、笹間村→小山田村
 8/19 鬼柳八幡祭礼
 8/26 花巻御給人佐々木治兵衛、病身の次郎助の代りに第九平次番代の申請、認可
 閏8/15 当作検見に役人派遣
 大迫へ目付の長内弥五郎と横目の一方井庄太郎
 寺林へ目付の横沢又右衛門と横目の江釣子重右衛門
 八幡へ目付の工藤甚右衛門と横目の遠藤喜右衛門
 高木へ目付の辻儀左右衛門と横目の黒沢新之丞
 黒沢尻へ目付の星合善太夫と横目の工藤彦右衛門
 根子へ目付の材津宇右衛門と横目の遠藤六右衛門
 黒岩へ目付の佐藤武右衛門と横目の山口長四郎
 日詰には目付の大沢安右衛門と横目の小森林与五左右衛門
 閏8/21 大迫村外川目の岩脇金山奉行に戸田喜兵衛と附田助内を任命
 9/13 大迫蔵奉行交代、帷子新平跡→小山田久左衛門
 9/24・二枚橋新田奉行に角惣七を任命(相役・長沼治五右衛門)
 ・鍋倉新田奉行に柴内又七を任命(相役・浅水甚之丞)
 9/29 成島村六郎右衛門、熟柿33(籠)を献納

- 10/27 殿様、漆戸勘左衛門家を訪問、漆戸家から雪村筆鷹の図1幅と祐定刀1腰を献納
- 11/2 宗旨改、稗貫郡24936人、和賀郡22541人、花巻御町4821人
- 11/4 大関清左衛門へ新田の小高帳交付(切米16駄片馬、新田17石、計50石)
- 11/8・花巻本蔵目付に遠藤喜右衛門を任命
- ・花巻新蔵目付に横浜金左衛門を任命
 - ・黒沢尻蔵目付に村上勘兵衛を任命
- 11/13 黒沢伝兵衛、知行所没収され現米支給となる(知行所の矢沢村百姓立退事件)
- 11/27・花巻新田奉行の折居嘉兵衛、浅水甚之尉へ役料三駄ずつ支給
- ・金田一与兵衛養子に、花巻御給人柏葉長九郎弟の忠次郎
- 12/15 親跡目相続、花巻御給人中嶋半左衛門→子権四郎(21石)
- 12/16 鬼柳代官交代、生方次郎兵衛→山本嘉右衛門
- 12/27・翌春の供上りで、上屋敷台所神山太兵衛、下屋敷倉奉行神山彦四郎、同破損奉
行
長坂次郎兵衛、任命される。
- ・花巻城代の御歳暮、鮭塩引3本・干わらび10把・串柿3連

【元禄5年・1692】記載事項 7月藩主交代(重信→行信)

1/2 殿様中丸で御礼受取、花巻役人三ヶ尻弥兵衛より太刀目録持参、御目見えに花巻給人二人づつ鳥目をもって御目見

1/11・鳥討、花巻城廻(瀬川と豊沢の間)は沢田長左衛門、和賀通(豊沢と藩境の間)は坂水善右衛門、郡山は中野十内を任命

1/11・黒沢尻門番に美濃部作右衛門と岩根又兵衛、高野源七を任命

【元禄5年・1692】記載事項 7月藩主交代(重信→行信)

1/14・八幡通代官交代、中川原小兵衛→神山市内

- ・高木通代官交代、河野太郎兵衛→船越与助
- ・二子通代官交代、飯岡庄兵衛→江釣子彦右衛門
- ・万丁目通代官交代、田頭太左衛門→簡作右衛門
- ・鬼柳通代官交代、松岡三太夫→小山田善左衛門
- ・大迫通代官交代、鈴木源太夫→細越与三郎
- ・花巻本御蔵奉行に根守源兵衛を任命
- ・黒沢尻御蔵奉行に片岸用之助を任命
- ・江戸御金奉行に花巻給人羽黒堂藤右衛門と奥寺孫兵衛を任命
- ・大工奉行交代、大沢甚右衛門→中村作右衛門

1/22 盛岡城で花巻御給人御目見え、各鳥目20匹

羽黒堂勝右衛門、田頭太左衛門、新渡戸九助、雫石弥九郎、神山空之助

鈴木伝右衛門、平沢継右衛門、煤孫治助子の惣次郎、高浜弥太夫子の弥三郎、高
橋藤兵衛子の伝十郎、松岡三太夫子の倉右衛門、四戸平兵衛子の黒作
佐々木治兵衛子の九平次、中島半左衛門子の梅四郎
与力の五日市伝右衛門、三田四郎兵衛

1/26 花巻山口村清三郎ら、沢内番所で松藻荷を差止め(偽の花巻城代印判を持参したことによる)

2/9 下鬼柳村漆穂で他藩の鉄砲打ち発見

2/21 松前志摩守様、昨日花巻に一泊

2/25 江戸藩邸勘定の宮野源内、不行届で成敗、勘定頭の昆喜右衛門らへ嚴重注意

2/26 東十二丁目村で手負鶴を捕獲

2/28 八戸頼母預かりの長沼治部右衛門、花巻の兄治五右衛門引取り

2/29・江戸上りの御宿割役に羽黒堂藤右衛門ら

・御先荷物役の長坂二郎兵衛、神山太兵衛、奥寺孫兵衛ら江戸上り(翌30日、長
坂二郎兵衛と神山半之丞、御納戸荷物付として江戸上りを命じられる)

2/30・花巻御給人照井源右衛門、孫娘の婿養子に長坂二郎兵衛弟の助五郎(16歳)、認可

3/1・小川休盛、還俗して休助と改名し江戸へ上る

- ・本山と羽黒の山伏の争論、落着(両閉伊郡)

3/16・内堀民部、早池峰参詣(5日間の休暇)

- ・桂源五左衛門と飯岡三郎左衛門、台で湯治休暇
- 3/19 殿様、花巻1泊(4月1日江戸着、式部様同行)
- 3/23 京都岡崎屋敷番交代、乳井六右衛門→平館重右衛門
- 4/10 右京様、台で湯治、御供三名
- 4/27 岩間六右衛門へ加増を申渡す
- 5/3 花巻城代、干鱈3枚と湯薇10把献納(端午の節句祝い)
- 5/27 遠江様家来の大沢三右衛門、黒沢尻町で腹痛を訴え、花巻から佐藤道茶と辺見友説を派遣(医師到着前に病死)
- 6/3 一戸町で5月5日大火、38軒焼失
- 6/10・江戸上屋敷台所交代、太田半次郎→畑中久右衛門
 - ・江戸御新宅賄交代、和井三四郎→新渡戸九助
 - ・下屋敷薪奉行交代、工藤久右衛門→久慈伝助
 - ・和賀川川除普請奉行に野田弥右衛門と大須賀九郎右衛門、同下奉行に遠藤六右衛門と下河原利兵衛
- 6/12 寺林代官交代、中村治右衛門→戸来治五右衛門
- 7/7 鳥討、花巻は沢田長左衛門を派遣、和賀は地討の坂水善右衛門
- 7/16 郡山・花巻御給役人に笠間弥右衛門を任命
- 7/20・重信公隠居、行信公家督相続、7月12日に認可され、返礼として楽阿弥の茶壺や土佐派の孔雀図屏風1隻などを献納
 - ・和賀川落合で初鮭1尺(江戸送り、翌日に二番鮭)
- 8/26 検見役人、二郡管内へ派遣
- 9/4 花巻で二番真鶴1羽、沢田長左衛門討上げ(江戸送り)
- 【元禄5年・1692】記載事項 7月藩主交代(重信→行信)
- 9/18 和賀鳥討の坂水善右衛門、初白鳥1羽討上げ(江戸送り)
- 10/11・花巻御給人の継目、煤孫治助→子・惣次郎(100石)
 - ・花巻御与力の継目、小川宇平次(24石余)
- 10/19・宗門改人数 稗貫郡29,957人、和賀郡22,741人
 - ・花巻の四戸平兵衛、病気養生の四戸新右衛門を引取る
- 12/25 老衰と病気の花巻信楽寺の後住に大庄厳寺弟子の諦忍房(永福寺申請が認可)
- 12/26 花巻城代、御歳暮に丸塩引3尺と干蕨10把、串柿3連献納

【元禄6年・1693】記載事項

- 1/11・花巻城廻鳥討に沢田長左衛門、和賀通鳥討に坂水善右衛門。・笹間通代官交代、江釣子彦右衛門と村角藤助→中嶋才兵衛と中川原小兵衛 ・黒沢尻通代官交代、鈴木嘉兵衛と欠端杵右衛門→小守林与五右衛門と村角藤助
 - ・安俣通代官交代、中西茂太夫→四戸黒作。・高木通代官交代、岩間助右衛門と舟越与介→伊藤七右衛門と一方井庄太郎 ・大迫通代官交代、山屋三右衛門→工藤市九郎 ・黒沢尻番に、石井兵作・中川四郎兵衛・服部小次郎を任命 ・江戸金奉行交代、羽黒堂藤右衛門と奥寺孫右衛門→煤孫惣次郎と鳥谷部嘉兵衛 ・大工奉行交代、赤沢兵右衛門→美濃部権八 ・下屋敷台所交代、神山半之丞→山屋三右衛門 ・下屋敷薪奉行交代、神山彦四郎→佐々木仁右衛門 ・江戸破損奉行交代、長坂二郎兵衛→大沢甚右衛門
- 1/15 勘定頭昆喜右衛門、江戸上り(江刺家九蔵と交代)
- 1/17 寺林代官交代、笠間弥右衛門→安宅定右衛門
- 1/30 重信様御物書交代、松尾又助→大沢甚平
- 2/5 花巻御給人伊藤次郎右衛門の子与左衛門が元禄5年12月4日、十二ヶ村で花巻与力の奈須川茂左衛門次男の助惣の乗った馬が自分の肩に触ったことに立腹、抜刀の上助惣を馬から打落した事件を江戸で協議→与左衛門は不調法で成敗、助惣は若輩により赦免
- 2/29 鬼柳通代官交代、山元嘉右衛門→田代左野右衛門(相役・小山田善左衛門)
- 3/2 村崎野新田の検地に物頭と目付を派遣
- 3/5 八戸藩志和蔵米の北上川通過を指示
- 【元禄6年・1693】記載事項
- 3/7 笹間村三右衛門、鴨畷の科で籠舎(3月22日罰金2両で放免)

3/13 藩主生母、江戸へ発足

3/21 公儀尋人につき代官へ指令、改め人を派遣。寺林通と八幡通へ根茂伝次と新渡戸伝助(寺林通代官は安宅定右衛門と戸来治五左衛門、八幡代官は神山市内・川井左助)、笹間通へ富田文太夫と高屋六左衛門(笹間通代官は鬼柳五右衛門と中嶋才兵衛)、黒沢通へ片岸用之助(代官は中川原小兵衛と小守林五左衛門)、鬼柳通へ玉山門太夫(代官は小山田善左衛門・田代左野右衛門)、立花通へ悪津平兵衛(代官は伊藤七右衛門と一方井庄太郎) 大迫通へ石亀平八(代官は工藤市九郎と細越与三郎) 安俵通へ中野忠左衛門(代官は村角藤助・四戸黒作)、花巻城下へ団軍右衛門(花巻町奉行は羽黒堂勝右衛門・藤根伝兵衛) なお万丁目代官は簡作右衛門と帷子半右衛門

5/4 花巻城代、端午の祝儀に干鱈3枚・湯蕨10把献納

5/26 行信、鬼柳で昼休み、花巻1泊(江戸5月15日発、同27日盛岡着)

6/1・花巻給人神山宅之助(彦四郎子)、中村才十郎(次郎右衛門子)、石沢久次郎、高浜千之助(弥三郎子)、戸田喜之介(喜三郎子)、上田辻松(十兵衛子)、与力の平賀清九郎、同煤孫藤松、同半場名左衛門の9名が初揚目見え、笹木九平次(治兵衛子)と与力の小川右平次(茂右衛門子)の2名継目の御礼・花巻川口の甚兵衛、藩主入部祝儀に御樽1荷と御肴1折献上

6/16・花巻御給人神山彦助孫市内養子に、彦助次男又右衛門とする。・堀内甚九郎の閉門免除を城代申請し、認可。

・小山田善右衛門と羽黒堂八左衛門の隠居、認可。

6/26 花巻御給人の加増、伊藤次郎右衛門(50石→77石5)、中島権四郎(21石→50石)、簡作十郎(30石→50石2)

6/28・藩主入部祝儀につき、花巻御給人50石以上は鳥目持参・藩主に目見え、神山金平(彦助孫)、永井次郎助(利左衛門養子)、上田喜三郎(喜兵衛養子)

7/2 寺林通代官に浦上十太夫を、舟帯奉行に遠藤六右衛門を任命

7/5・江戸上屋敷台所交代、畑中久右衛門→一方井庄太郎・江戸新宅賄交代、新渡戸九助→四戸勘十郎

7/7・鳥討、花巻は川村左兵衛、和賀は地討の坂水善右衛門を任命。撤駒改役人石井甚五左衛門と江刺家藤太夫、郡山と花巻、村崎野、大迫へ派遣。

7/12 高木通代官交代、一方井庄太郎(江戸上屋敷台所就任)→長坂次郎兵衛(花巻城代へ通知)

7/13 跡目相続、花巻御給人門屋長九郎→子新三郎(50石)、花巻御給人戸来久右衛門→子治五右衛門(50石)、花巻御給人大関清左衛門→子源八郎(50石)

7/13 羽黒堂八左衛門と坂水又兵衛の伊勢参詣休暇を認可。

8/6 花巻で真鶴1羽討ち上げ、6日間で江戸送り

8/23 野々村宇右衛門、花巻川で捕獲の川鱸(すすぎ)を献納。

9/10 安俵通代官交代、四戸黒作→太田平右衛門

9/11 検見役人の派遣、八幡通へ女鹿源兵衛と坂牛市右衛門。寺林通へ川村右内と四戸半太、万丁目通へ山口長四郎と切田清六。高木通へ工藤彦右衛門と柄内十助、安俵通へ和井内久三郎と帷子勘介 笹間通へ小笠原金右衛門と黒沢甚之丞、黒沢尻通へ山口助右衛門と福田覚内鬼柳通へ長沢吉右衛門と安宅平右衛門

10/9・花巻城代交代、三ヶ尻弥兵衛(病氣辞任)と野々村宇右衛門→高野庄兵衛と毛馬内蔵人(両名が役務に慣れるまで、野々村宇右衛門暫時花巻で勤務を命じられる、なお12月19日付で野々村宇右衛門の隠居入道と平馬の家督が認可)・照井与五右衛門の隠居入道と七郎兵衛への家督相続、認可。

10/19 江戸上屋敷、10月13日に全焼の報 注-「花巻年契」では10月3日江戸蔵屋敷火事

11/6 宗門改 稗貫郡23,504人、和賀郡24,742人、花巻町5,025人

11/9・花巻御給人の跡目相続、乙部甚十郎→養子甚平(25駄)、高橋九郎左衛門→子長作(15石5)

・伊藤二郎右衛門の婿養子、小野寺庄右衛門、認可。・江戸上屋敷作事役人の任命、御歩行棟梁に美松儀兵衛と大工5人

12/1 戸来治五右衛門、大関源八郎、門屋新三郎、乙部甚平、高橋長作の5人、継目のお礼に安堵金持参、藩主に新丸居間で目見え。

12/13・羽黒堂藤右衛門の畑返新田、認可。・伊藤次郎右衛門隠居と庄右衛門(婿養子)の家督相続、認可。

12/19・花巻御給人の跡目相続、神山市内(50石)、鬼柳五右衛門(50石)、岩清水長吉(89石)

12/26 花巻城代、御歳暮に塩引3本・干蕨10把・串柿3連献納。

【元禄7年・1694】記 載 事 項

1/2 行信公に盛岡城中丸で、折居通慶目見え

1/6・花巻御給人の御目見、高野庄兵衛同行、各鳥目20匹を納入(藤根伝兵衛・太田平右衛門・伊藤小一郎)

・岩清水長吉と与力簡作十郎、安堵金1両を納入・改名、雫石弥九郎→弥右衛門、鬼柳五右衛門→清右衛門

【元禄7年・1694】記 載 事 項

1/11・鳥討、花巻城廻に川村左兵衛、和賀通に坂水善右衛門 ・江戸金奉行交代、須々孫治助→鈴木源太夫

・江戸破損奉行交代、大沢甚右衛門→四戸治左衛門

1/12 桜庭兵助病死(翌日兵助印判居判上る)

1/15 花巻御給人下杉覚之助(孫八子)と丹内不動別当和泉、初目見え

1/22 長坂源次郎、御物書解任

1/30・大迫代官交代、工藤市九郎→飯岡庄兵衛 ・大迫蔵奉行交代、葛西半右衛門→工藤長左衛門

2/9・花巻御給人四戸平兵衛へ畑返許可、出高本知へ加え(横川目村分)

・名跡許可、花巻御給人梅木助左衛門→次男・千右衛門

2/9・紫野新田奉行交代、奥寺作右衛門→青木甚内(暫時の後任、3月28日太田原清右衛門に交代)

・紫野新田奉行下杉孫八、盛岡へ移住を命令される(職務そのまま)

2/25・花巻御給人太田平右衛門、松岡三太夫、猪去弥平次、鬼柳清右衛門、鈴木嘉兵衛、高橋藤兵衛、簡作右衛門、佐藤長右衛門、門屋新三郎、神山彦右衛門、岩間助右衛門、照井源右衛門、佐藤八右衛門、新渡戸七兵衛へ、畑返許可 ・櫛引準右衛門、小田代久兵衛、岩門七兵衛、平沢万左衛門、高屋八右衛門、御与力御免(御給人に昇格) ・花巻へ医者派遣を決定(花巻城代高野庄兵衛と毛馬内蔵人の申請)

3/4 花巻城代高野庄兵衛、活美濃1本と田ニシ1鉢献納

3/18・長坂二郎兵衛・神山彦四郎・新渡部九郎の知行畑返を認可 ・小田代久左衛門、与力新田24石余を子の久兵衛と又兵衛、又助の3人に分与 ・中居源右衛門婿養子に羽黒堂勝右衛門次男の八郎助、認可。

・跡式、伊藤庄左衛門→子の庄蔵

3/21 藩主、花巻1泊(4月4日江戸着)

3/26 安俵代官交代、村角藤助(依願辞任)→中西茂太夫

4/7 岩間治右衛門、御物書頭に任命

4/17 花巻へ医者を生方徳潤を派遣(翌年春まで、手当は2人扶持)

4/26 大迫金柄金山で殺人事件(目付大森重右衛門派遣、首謀者成敗)

5/2 延宝6年(1678)から馬継実施の石鳥谷町の市日、十日市から六日市に変更

5/22 下鬼柳村長兵衛処置のこと

閏5/25 黒沢尻代官交代、中川小兵衛→笹木三郎兵衛

6/10 上屋敷台所交代、一方井庄太郎→長沼治五右衛門

6/19・花巻蔵奉行交代、荒木田惣右衛門と工藤半右衛門→細越与三郎と松岡三太夫 ・花巻新蔵奉行交代、永山弥之助と小野寺惣右衛門→山屋三右衛門と太田半次郎 ・黒沢尻蔵奉行交代、苫米地長左衛門→蛇口二郎左衛門

6/25 花巻御蔵奉行交代、細越与三郎→大沢甚右衛門

6/29 二枚橋新田奉行交代、長沼治五右衛門→小野寺山三郎(相役は角惣七)

7/7 鳥討、花巻御城廻へ沢田長左衛門、和賀へ坂水善右衛門(和賀通鳥討らは同19日雫石弥右衛門と交代、弥右衛門に伝馬・鳥塩付け用の塩を支給)

7/18 郡山と花巻、村崎野、大迫の掬駒改に、田中久太夫と相生源左衛門を派遣

8/2 安俵村と十二ヶ村、土沢村住民、達曾部村鑄物山から密かに薪伐採で牢屋入りの処、罰金で釈放

- 8/5 長沼治部右衛門、兄治五右衛門知行所長沼村で押込め処分中、7月22日欠落(治五右衛門子の九一郎報告)
- 8/13 黒沢尻町、5・15・25日の三齋市から25日のみ一齋市に変更
- 10/1 主税様と主計様の御分地(高目録中に尻平川目村、横志田村、枳内村、笹間村、村崎野、藤沢村あり)
- 10/9 跡目相続、花巻・玉山与十郎→子・左兵衛(10駄2人扶持)
- 10/30 宗門改 和賀郡24,915人、花巻御町5,339人(稗貫郡22,631人か)
- 12/24 跡式、鈴木嘉兵衛→養子の又四郎(50石) 佐藤十次郎(田瀬番所で死去)→子徳助(2人扶持)
- 佐々木仁左衛門→養子の仁右衛門(50石)
- 12/29 江戸の吉助様賄いに大関孫六、同末役に神山市内を任命

【元禄8年・1695】記載事項 一領内凶作(例年収穫の1/3に留まる)一

1/11・万丁目通代官交代、帷子半右衛門→金田一久左衛門 ・八幡通代官交代、川井左介→鶴飼勘三郎

・安俣通代官交代、中西茂太夫、新渡戸兵右衛門 ・鳥討任命、花巻へ沢田七左衛門、和賀へ坂水善右衛門

・黒沢尻物留交代、沢里十兵衛と石井甚五左衛門、中嶋伝右衛門→相口四郎右衛門と野辺地藤四郎、神子田藤右衛門

5/4 花巻城代、端午の祝いに干鯨3と湯薇10把を献納

【元禄8年・1695】記載事項 一領内凶作(例年収穫の1/3に留まる)一

5/25 殿様前日に花巻1泊、午下の刻盛岡着(13日江戸発、玉山刑部同行)

6/6 勘定頭昆喜右衛門、江戸信金年賦役として江戸上り

6/8・和賀川普請奉行、遠藤多左衛門を任命 ・江戸秋代役人、下屋敷薪奉行宮沢源七→宮野与左衛門、

下屋敷台所秋山彦右衛門→二ヶ村甚右衛門

6/18 江戸秋交代役人、金奉行駒木二郎三郎→戸来治五右衛門 隠居(重信)末賄い泉山清右衛門→苔米地長左衛門

7/4・主税様へ分地5,000石(和賀郡村崎野村、笹間村、横川目村ほか) ・主計様へ分地3,000石(和賀郡藤沢村、笹間村、滑田村ほか)

7/7 鳥討、花巻は地討の雫石弥右衛門、和賀は坂水善右衛門

7/18 花巻御給人中村治右衛門病気、村田道伯による治療願ひ

7/22 村崎野御仮屋諸道具、花巻城で保存

7/23・跡目相続、花巻御給人高屋八右衛門→孫の権之丞(35石)、一条弥太郎→子の権太郎(15駄)、浅水甚之丞→子の喜太郎(15駄) 佐々木仁右衛門→子の六十郎(50石)

櫛引源右衛門→養子の十兵衛(30石789)

・大破の鬼柳八幡宮の造営に40駄借用(花巻信楽寺申請)、勘略の仰せから米の借用不可。

7/29 四戸平兵衛、病気の新八(当時御物書)を花巻引取りを申請し認可(病気回復次第職場復帰)

8/8 佐藤甚平、病気のため花巻へ戻り、扶持方となる

8/14 御用書の昆市右衛門と照井小右衛門、祐筆に抜擢

8/16 花巻御給人神山市内、伊藤小一郎、二ヶ村甚右衛門、乳井半十郎、与力の簡作十郎の5名、知行所変更(主税・主計への分地に伴う措置)

8/22 石井惣右衛門、和賀郡立花村で知行新田を願ひ上げ

8/28 花巻御給人佐々木六十郎、櫛引十兵衛、高屋権之丞、浅水喜太郎、家督相続の御礼申上げ

9/13 花巻ほかへ、不作で酒造禁止を指令

9/17 風俗異装禁止の覚を花巻役人へ指令

10/4 花巻御鳥討雫石弥右衛門と和田十助(鳥見和田半左衛門子)、落合村で無断で鉄砲を討つ者を追跡、鉄砲と鴨1羽を押収(鉄砲は御武具奉行へ渡す)

10/8 花巻三町共、申請の売米を認可される。

10/13 花巻本御蔵目付に大川平右衛門、同所新御蔵目付に佐藤勘太夫、黒沢尻目付に中村作右衛門、花巻本蔵目覆奉行に和井内惣五郎、花巻新蔵目覆奉行梅内平七、黒沢尻蔵目覆奉行に

金田一与兵衛を各任命

10/15 継目御礼、花巻御給人一条権太郎

10/16 幕府に領内飢饉を報告(12月1日幕府から翌年の参勤を免除する旨指示あり)

10/18 成島村六右衛門、熟柿28を鳥討の滴石弥右衛門を通じ、献納

10/21 大迫下町次郎右衛門名子で外山の山守、18日に焼死

10/26 寺林通西宮野目村久三郎と小十郎、手廻共引連れ23日晚欠落(代官、家財道具改めを勘定所に提出)

10/28 宗門改 和賀郡27,742人、花巻御町5,417人(稗貫郡21,245人カ)

10/29・鬼柳通山口村庄吉、手廻引連れ22日晚欠落

・花巻三町酒屋へ、寒造を一切禁止の指令

12/6 跡目相続、中村治右衛門→子の次郎右衛門(100石)(同15日盛岡城居間) 奥寺八兵衛→子の半五郎(50駄)

(書院で相続のお礼) 三田伝内→子の源太夫(10駄2人扶持)、小野寺山三郎→子の六兵衛(5駄3人扶持)

12/20 藩主、盛岡・東禅寺什物の足利尊氏扇面を実見する

12/25 花巻城代(毛馬内蔵人と高野庄兵衛)、御歳暮に塩引2本、干蕨10把、串柿5連献納

※ 追加 『花巻市史 年表編』では

11/3 餓死者710名余り、御助け米支給